ラングベール

取付説明書 ー電動タイプ施工ー

●このたびは、東洋エクステリア製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

警告

●門扉は人や車が出入りするためのものです。構造によって開閉する方法が異なりますので、設置の場所・目的に合わせて選択してください。

注意

●ラングベールの基礎は、「ラングベール ー基礎施工ー（D337）」の取付説明書で施工してください。
●ラングベール施工床面は、コンクリート厚さが「ラングベール ー基礎施工ー（D337）」の取付説明書に記載している寸法以上あることをあらかじめ確認してください。記載寸法以下の場合アンカー用下孔が基礎を貫通したり、引戸本体取付強度低下の原因になります。
●正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

■電動装置施工の際、下記工具が必要となりますので予めご用意ください。

●M12オールアンカー用コンクリートドリル、M10グリップアンカー用コンクリートドリル
●φ3.5下孔用電動ドリル

■電気配線工事について

●配線柱内部のCD管には、呼び16（内径φ16、外径φ22）を使用しています。家側からの配管は、PF管呼び16を使用してください。

＜施工上のご注意＞

⚠ 注 意

- ●扉走行床面は水平に仕上げてください。
- ●電装商品の場合は配線工事を有資格者の専門業者にご依頼ください。
- ●施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

■梱包明細表

【1】本体セット

名　　称	略　　図	員　数	
		片引き	両引き
本体　掛		1	1
本体　受		−	1

【2】戸当り柱セット

名　　称	略　　図	員　数
戸当り柱		1

【3】ベースローラーセット

名　　称	略　　図	員　数
ベースローラー		1

【4】電動柱セット

名　　称	略　　図	員　数	
		片引き	両引き
電動柱		1	2
センサー柱		1	2
センサーフード		2	4
埋設ケーブルカバー		1	2
電動柱固定アングル		1	2
電動柱固定アングル（スイッチカバー付き）		1	2
駆動BOX取付ブラケット		1	2
センサー柱キャップ		1	2

【4】電動柱セット（つづき）

名　　称	略　　図	員　数	
		片引き	両引き
リモコン送信機		1	2
アンテナ		1	2
マグネットスイッチ		2	4
センサーケーブル		1	−
連結ケーブル		−	1
【4-1】M5×10 座金組込ナベ小ネジ		4	8
【4-2】M4×10トラスネジ		26	52
【4-3】M8×20 座金組込六角ボルト		10	20
【4-4】M8×15 座金組込六角ボルト		6	12
【4-5】M6×15 座金組込六角ボルト		2	4

【5】部品セット

名　　称	略　図	員　数	
		片引き	両引き
クッションA		1	2
クッションB		1	2
ガイドローラーブラケット		1	2
ベース端部キャップR		2	4
ベース端部キャップL		2	4
落し棒セット		1	2
落し棒受けパイプ		2	4
把手セット		1	2
戸車		2	4
戸車枠		1	2
後部戸車枠		2	4
ローラーガイドキャップR		1	2
ローラーガイドキャップL		1	2

【5】部品セット（つづき）

名　　称	略　図	員　数	
		片引き	両引き
ガイドローラー		1	2
戸車ガイド		1	−
両引き用戸車ガイド		−	1
レベル調整板		12	8
【5-1】M4×10ナベ小ネジ		1	2
【5-2】M4×10トラスネジ		2	4
【5-3】φ4×10 トラスタッピンンネジ2種		4	8
【5-4】M6×35ナベ小ネジ		1	2
【5-5】M6×50ナベ小ネジ		1	2
【5-6】M6×10サラ小ネジ		7	14
【5-7】M6×40サラ小ネジ		3	6
【5-8】M6×16 座金組込ナベ小ネジ		2	−
【5-9】M6×16六角ボルト		2	4
【5-10】M6バネ座金		3	6
【5-11】M6×16 座金組込六角ボルト		4	8
【5-12】M8×18 座金組込六角ボルト		2	4
【5-13】M8×25六角ボルト		4	8
【5-14】M8×45六角ボルト		2	2
【5-15】M8六角ナット3種		2	2
【5-16】M8平座金		4	8
【5-17】M8バネ座金		4	8
【5-18】M10×35六角ボルト		2	2
【5-19】M10バネ座金		2	2
【5-20】φ12×100オールアンカー		6	4
【5-21】M10グリップアンカー		−	4
【5-22】M10×25六角ボルト		−	4
取付説明書（D409）	−	1	1
取扱説明書（UD091）	−	1	1

1.基本寸法と各部の名称

1-1 片引き　格子タイプA・B型

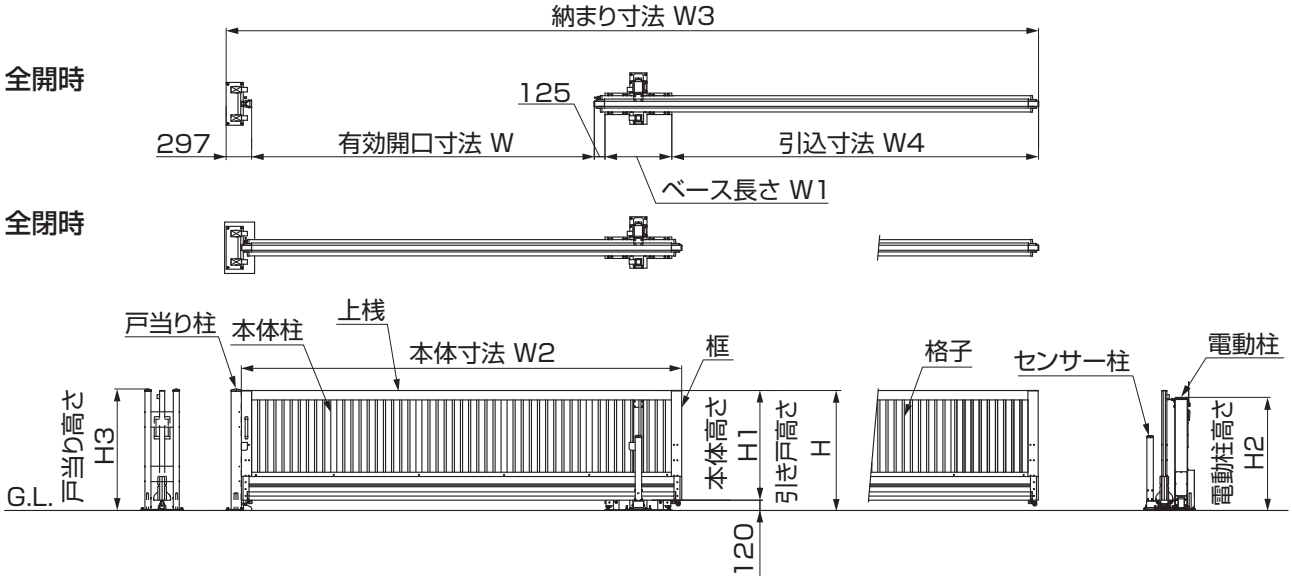


表1-1

	W	W1	W2	W3	W4
W30	3000	580	3940	7237	3235
W40	4000	780	5140	9437	4235
W50	5000	780	6140	11437	5235
W60	6000	980	7340	13637	6235

表1-2

	H	H1	H2	H3
H−12	1200	1080	1120	1218
H−14	1400	1280	1320	1418
H−16	1600	1480	1520	1618
H−18	1800	1680	1720	1818

1-2 片引き　格子タイプC型

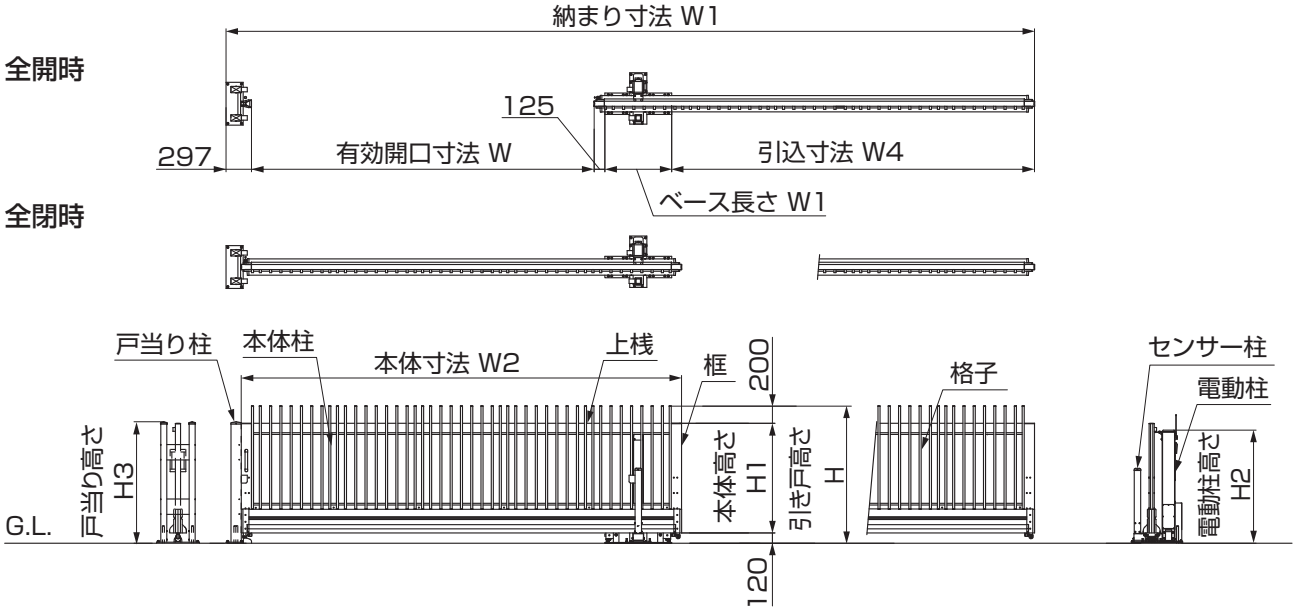


表1-3

	W	W1	W2	W3	W4
W30	3000	580	3940	7237	3235
W40	4000	780	5140	9437	4235
W50	5000	780	6140	11437	5235
W60	6000	980	7340	13637	6235

表1-4

	H	H1	H2	H3
H−14	1400	1080	1120	1218
H−16	1600	1280	1320	1418
H−18	1800	1480	1520	1618
H−20	2000	1680	1720	1818

1-3 両引き　格子タイプA・B型

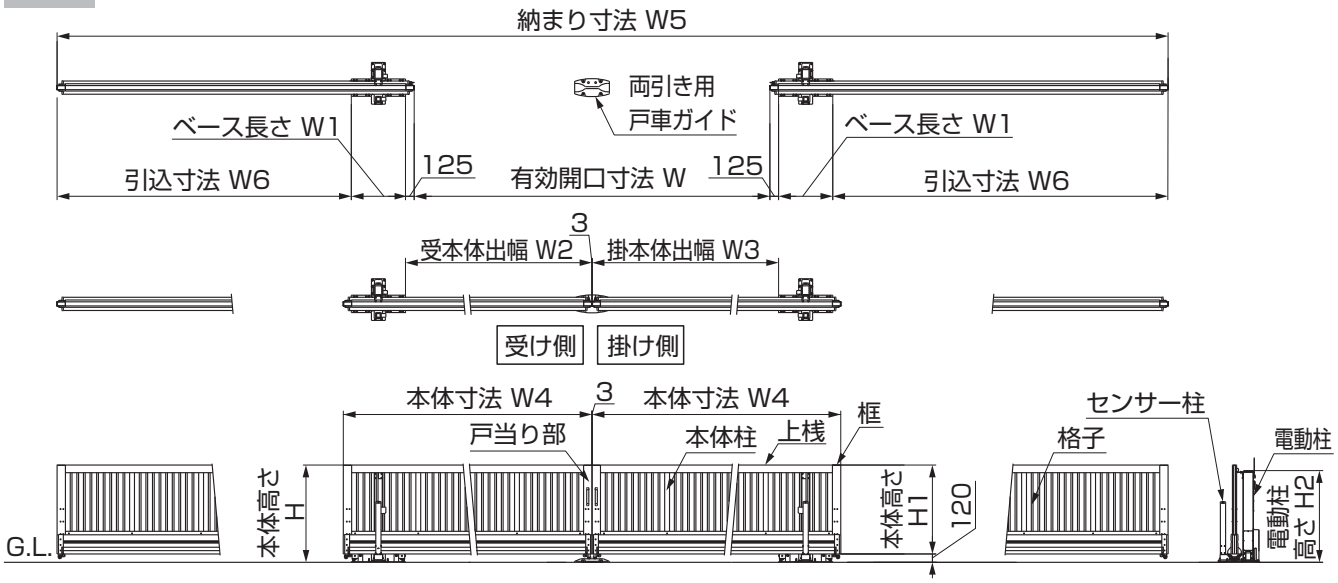


表1-5

	W	W1	W2	W3	W4	W5	W6
W30-30	6243	580	3121.5	3091.5	3940	14123	3235
W40-40	8243	780	4121.5	4091.5	5140	18523	4235
W50-50	10243	780	5121.5	5091.5	6140	22523	5235
W60-60	12243	980	6121.5	6091.5	7340	26923	6235

表1-6

	H	H1	H2
H12	1200	1080	1120
H14	1400	1280	1320
H16	1600	1480	1520
H18	1800	1680	1720

1-4 両引き　格子タイプC型

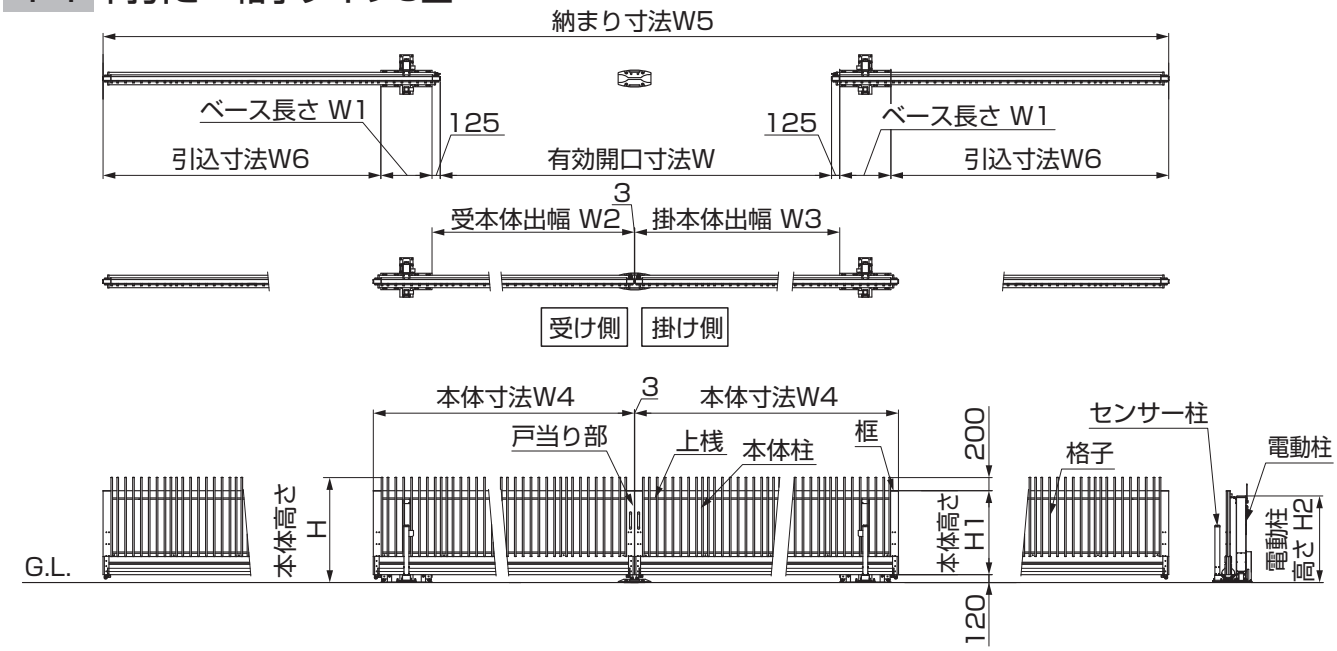


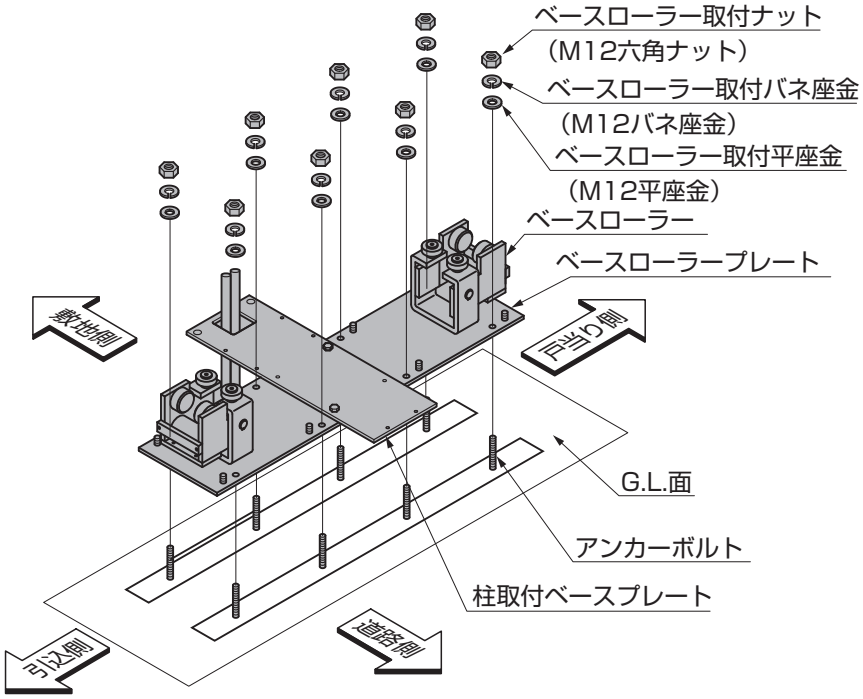
表1-7

	W	W1	W2	W3	W4	W5	W6
W30-30	6243	580	3121.5	3091.5	3940	14123	3235
W40-40	8243	780	4121.5	4091.5	5140	18523	4235
W50-50	10243	780	5121.5	5091.5	6140	22523	5235
W60-60	12243	980	6121.5	6091.5	7340	26923	6235

表1-8

	H	H1	H2
H14	1400	1080	1120
H16	1600	1280	1320
H18	1800	1480	1520
H20	2000	1680	1720

2.ベースローラーの取付け



①施工済みのベースアングルに付いている「ベースローラー取付ナット」と「ベースローラー取付座金」を外して、ベースローラーをアンカーボルトに差込んでください。

②図のようにベースローラーを「ベースローラー取付平座金」、「ベースローラー取付バネ座金」、「ベースローラー取付ナット」で取付けてください。

ポイント

●ベースローラー全体の水平が出ていない場合は、「3.ベースローラーのレベル調整」を参照してください。

3.ベースローラーのレベル調整　※ベースローラーを取付けた状態でレベルを調整する作業です。

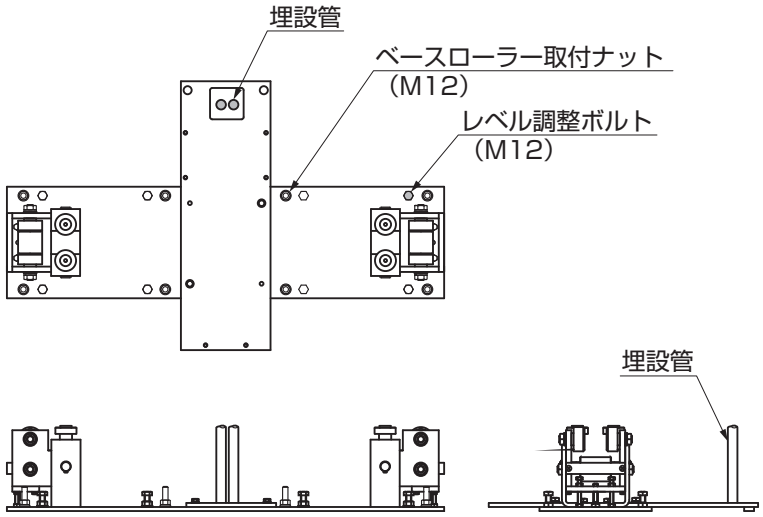


図3-1

①一番高いところを基点にして、他の7箇所の「ベースローラー取付ナット」を緩めてください。（図3-1参照）

ポイント

●高さが低い場所の「レベル調整ボルト」を固定している「ロックナット」を緩めて、「レベル調整ボルト」を締め込むとレベルが上がります。（図3-2参照）

②全体の水平を出した後で、「ベースローラー取付ナット」と「ロックナット」を確実に締めて固定してください。（図3-2参照）

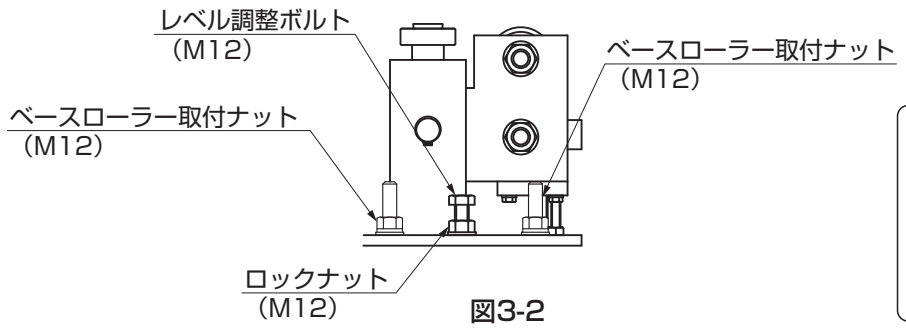


図3-2

注 意

●「ベースローラー取付ナット」と「ロックナット」が緩んだ状態で本体パネルを開閉すると、本体パネルが転倒・破損して事故につながるおそれがあり、大変危険です。

D409_200709B

4.本体の挿入

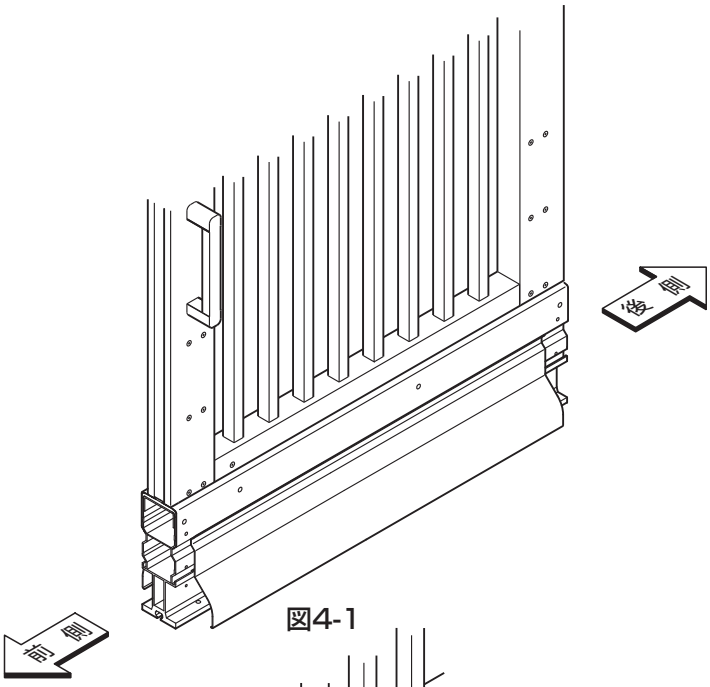


図4-1

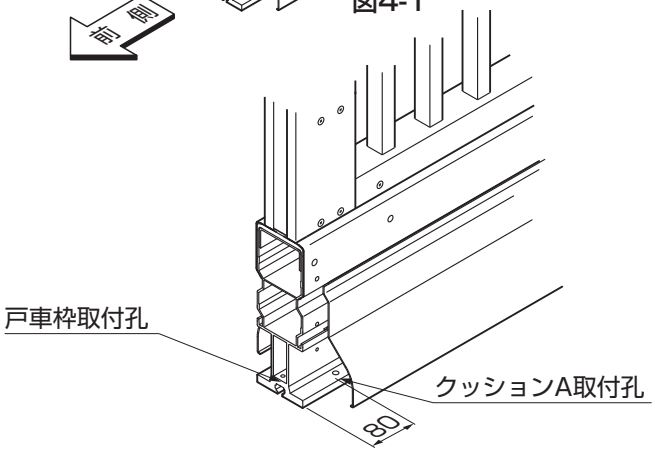


図4-2

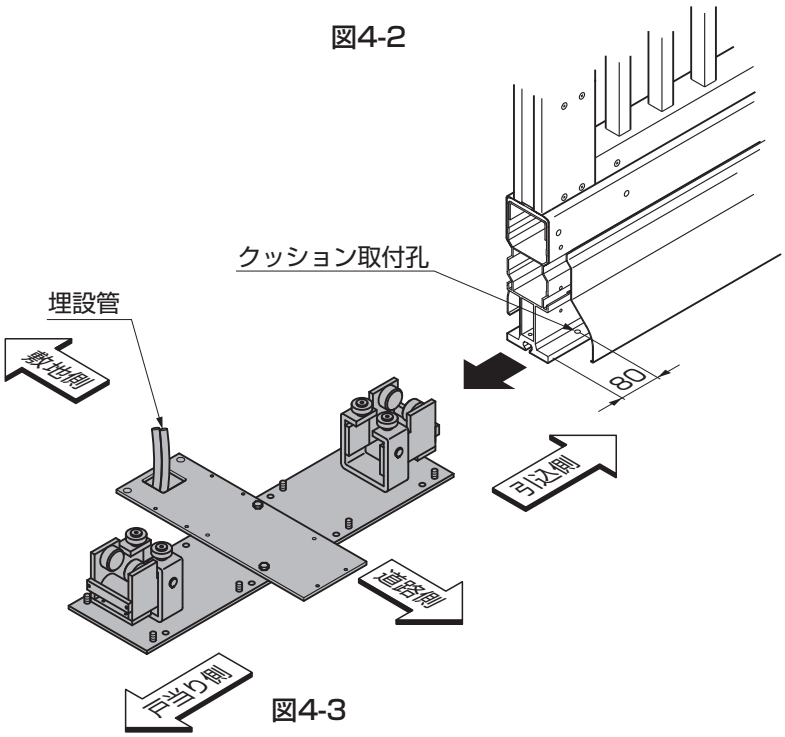


図4-3

ポイント

●本体には前後があります。框に把手取付け孔があいている方が前方です。（図4-1参照）

①本体前側からベースローラーに挿入してください。（図4-3参照）

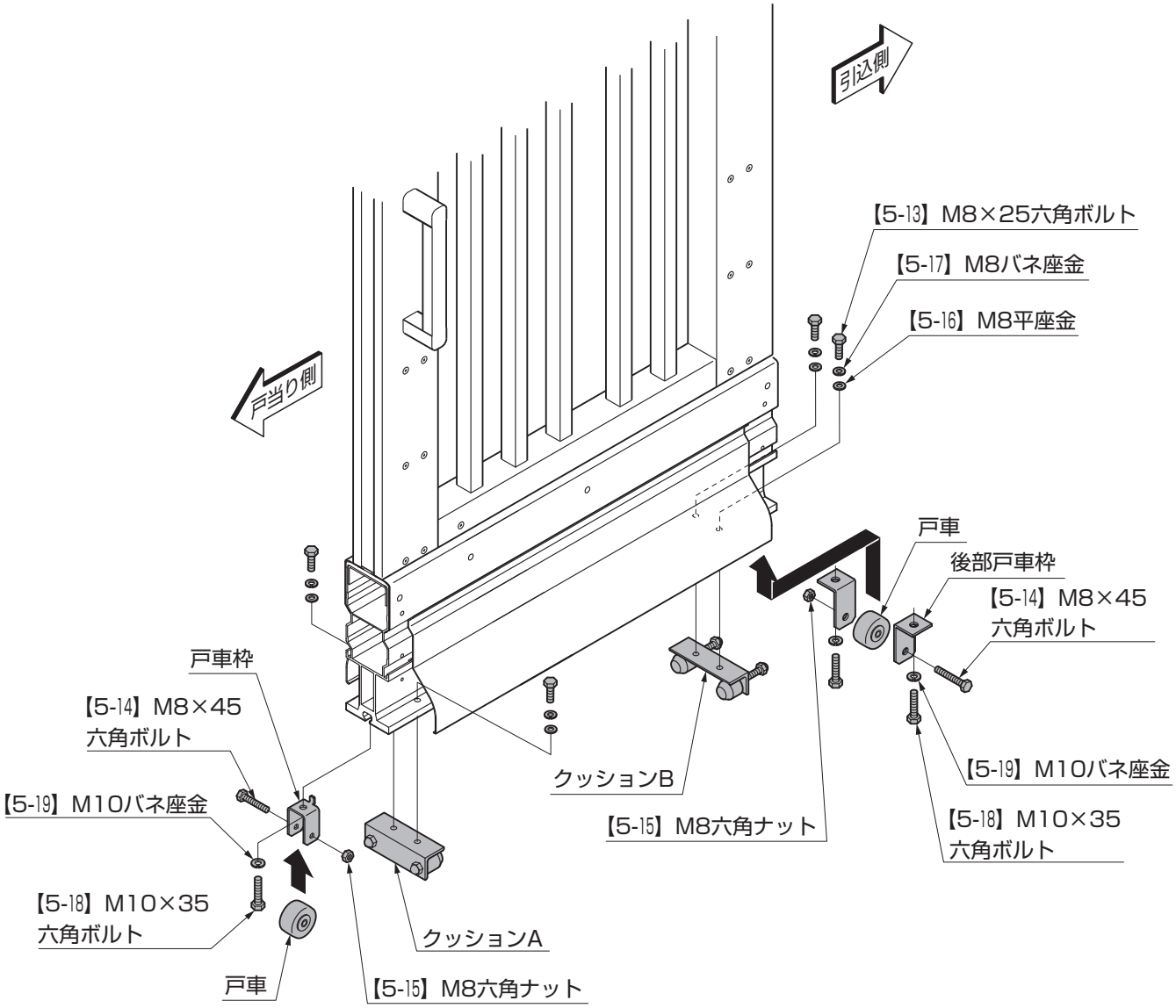
ポイント

●本体挿入時に、ベースローラーを破損しないように静かに挿入してください。

補 足

●本体は戸当り側・引込側のどちらからでも挿入できます。作業のしやすい方向から挿入してください。
●図は、右開き仕様の引込側から入れた場合です。

5.クッション・戸車の取付け



①クッションAを戸当り側、クッションBを引込側にそれぞれ【5-13】、【5-17】、【5-16】で取付けてください。
②戸当り側に戸車枠上部のツメを本体ベース下面の溝に入れて、【5-18】、【5-19】で取付けてください。
　引込側本体ベースの下面に後部戸車枠を【5-18】、【5-19】で取付けてください。
③戸車を戸車枠と後部戸車枠それぞれの間に入れて【5-14】、【5-15】で取付けてください。

D409_200709B

6.電動柱・センサー柱の取付け

6-1 電動柱・センサー柱の取付け

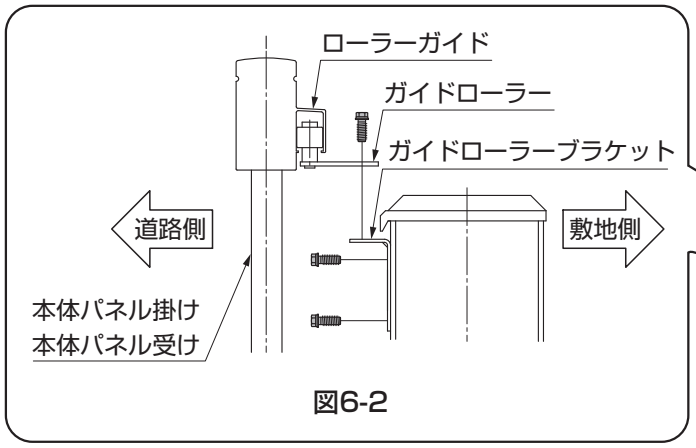
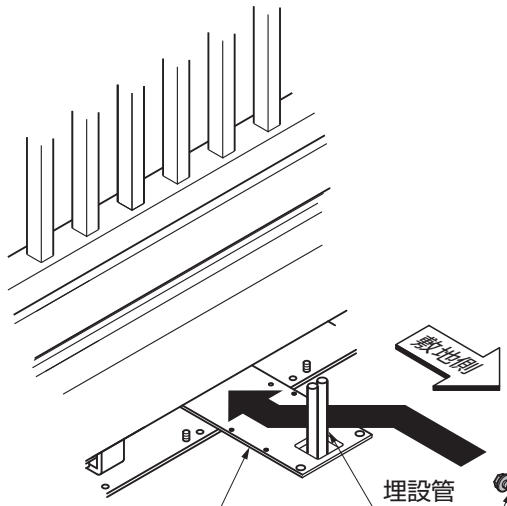


図6-2



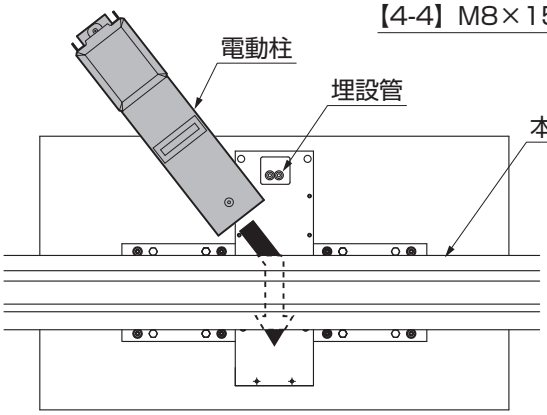


図6-3

【5-11】M6×16座金組込六角ボルト
【5-12】M8×18座金組込六角ボルト
ガイドローラー
ガイドローラーブラケット
電動柱
【4-4】M8×15
座金組込六角ボルト
【4-4】M8×15
座金組込六角ボルト
【4-5】M6×15座金組込六角ボルト
駆動BOX取付ブラケット
【4-4】M8×15座金組込六角ボルト
電動柱固定アングル
【4-3】M8×20
座金組込六角ボルト
【4-3】M8×20
座金組込六角ボルト
電動柱固定アングル
（スイッチカバー付）

図6-1

①電動柱の駆動部を引戸本体パネルの下に挿入してください。この時、埋設管をさけるようにして挿入してください。
②電動柱に電動柱固定アングル、電動柱固定アングル（スイッチカバー付）を【4-3】で取付けてください。

6.（つづき）

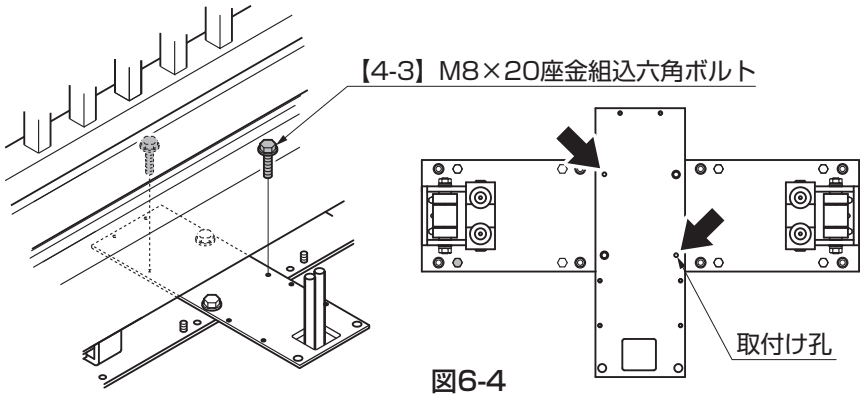


図6-4

③電動柱を挿入後、柱取付けベースプレートとベースローラーを【4-3】で取付けてください。（図6-4参照）

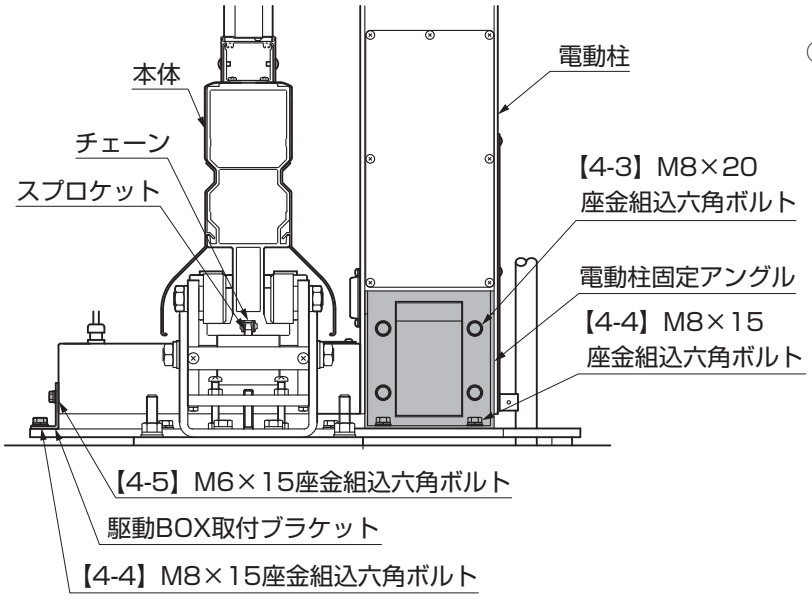


図6-5

④電動柱を駆動BOX取付けブラケットと電動柱固定アングルを使って、柱取付けベースプレートに【4-4】、【4-5】、【4-3】で取付けてください。この時スプロケットとチェーンが確実にかみ合っているか確認してください。（図6-5参照）

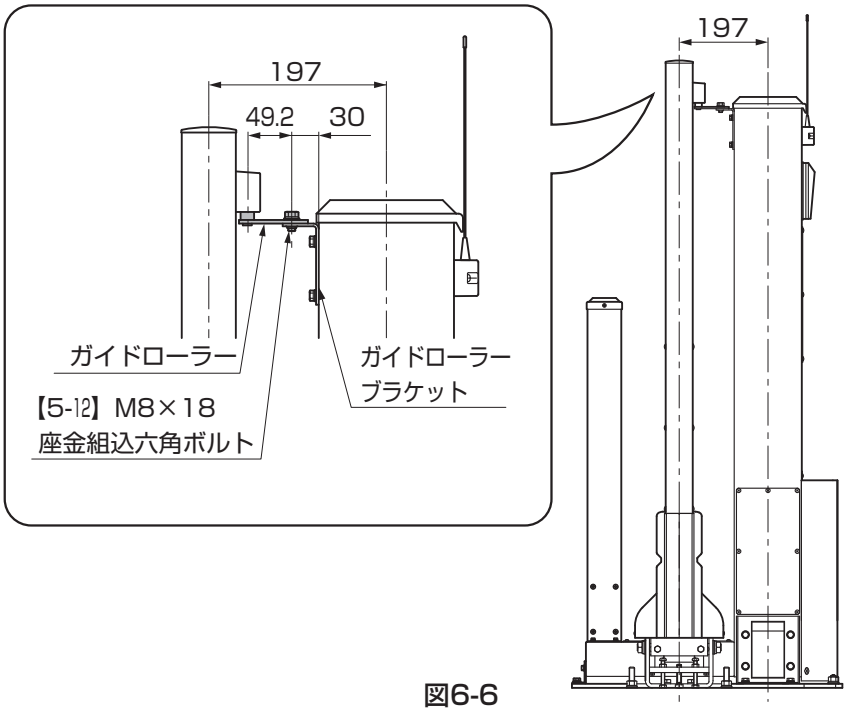


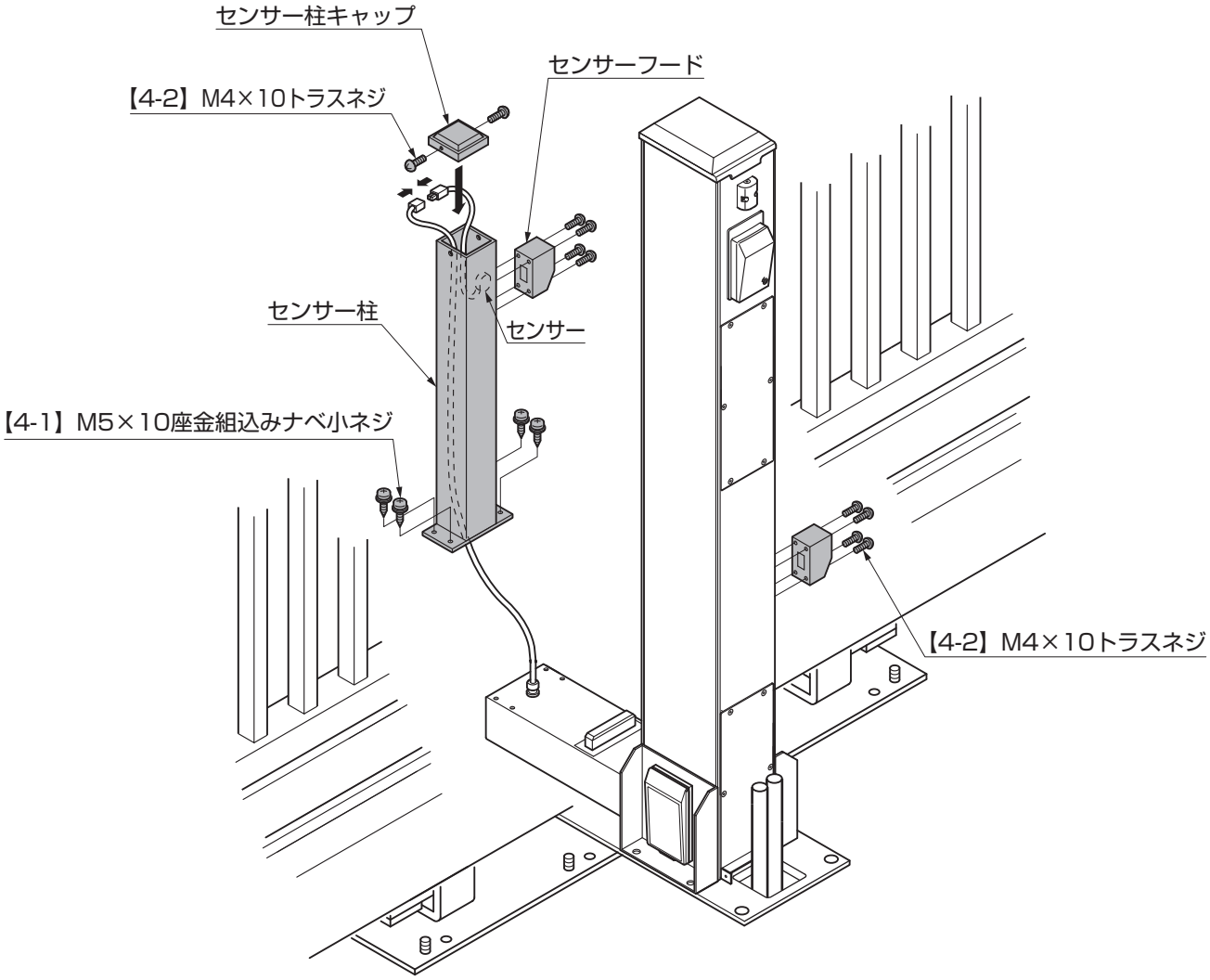
図6-6

⑤電動柱にガイドローラーブラケットを【5-11】で取付けてください。
⑥本体のローラーガイドにガイドローラーを通して、ガイドローラーブラケットに【5-12】で仮止めしてください。
⑦本体パネルの垂直を確認して、垂直になっている場合は仮止めした【5-12】を固定してください。

ポイント

●本体パネルが垂直になっていない場合は、仮止めした【5-12】を緩めて本体パネルが垂直になる位置で【5-12】を締め直してください。

6-2 センサー柱の取付け



①センサー柱に図のように電動柱のコードを通して、コネクターを接続してください。

ポイント

●接続したコネクターとコードは、センサーの後側の柱の中に納めてください。

②センサー柱とセンサー柱キャップを【4-1】、【4-2】で取付けてください。
③電動柱とセンサー柱にセンサーフードを【4-2】で取付けてください。

7.戸当り柱の取付け　※片引きの作業です。

7-1　戸当り柱の位置決め

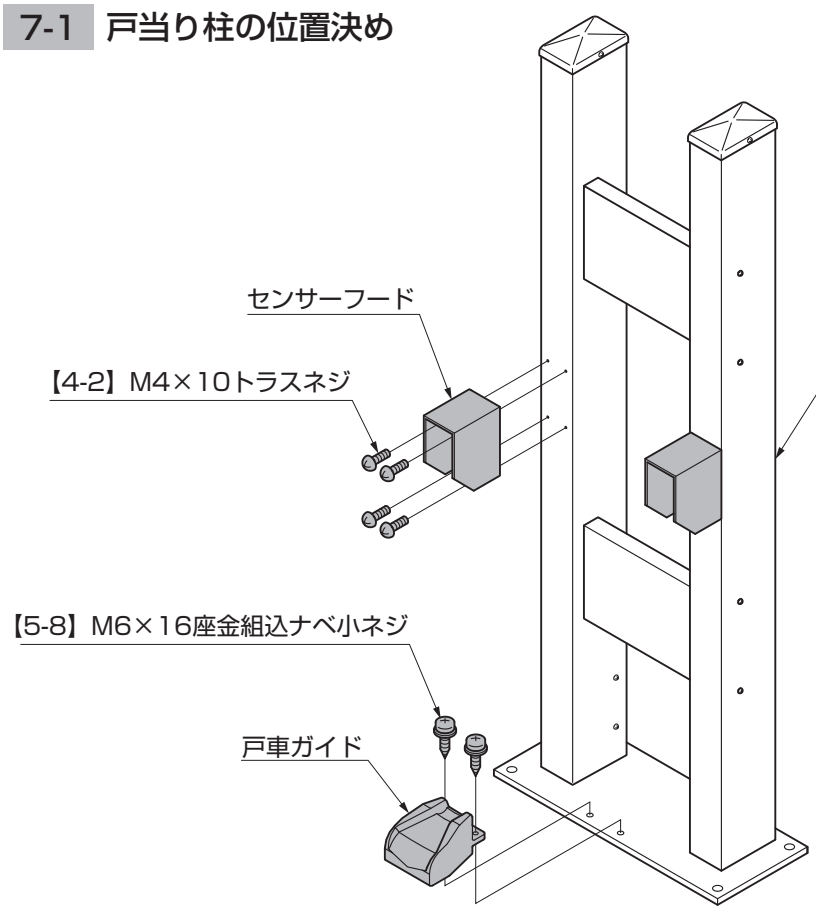


図7-1

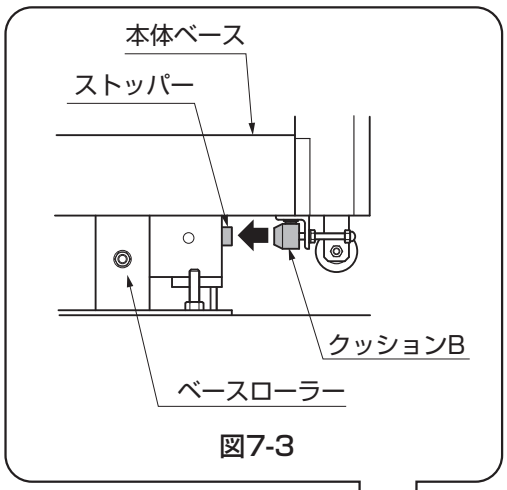


図7-3

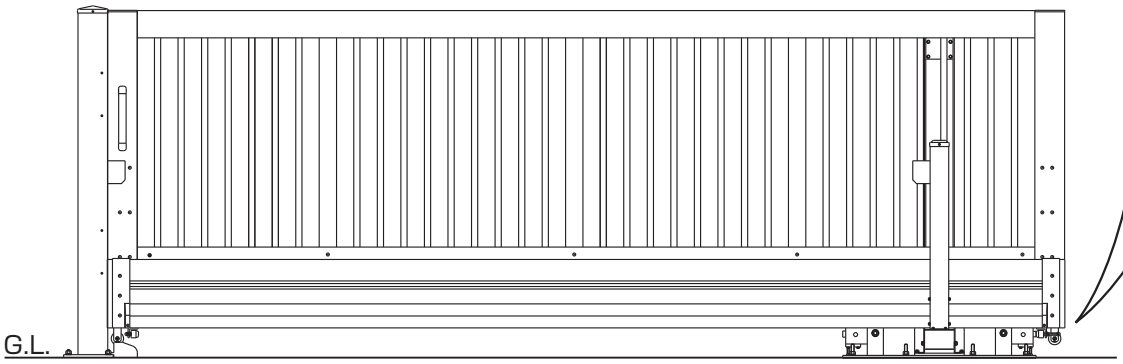


図7-2

①戸当り柱下面で付属の連結ケーブルと戸当り柱のセンサーコネクタを接続してください。

ポイント

●あらかじめ付属の連結ケーブルを埋設管に通しておいてください。

②戸当り柱ベースに戸車ガイドを【5-8】で取付けてください。
③本体をクッションBがストッパーに当るまでいっぱいに引き出してください。
④戸車ガイドに本体の戸車が乗り上げる位置に戸当り柱を置いてください。
⑤センサーフードを戸当り柱に【4-2】で取付けてください。

7-2 本体ベースのレベル調整

※図の高さに戸車がくるように、本体ベースのレベル調整を行なう作業です。

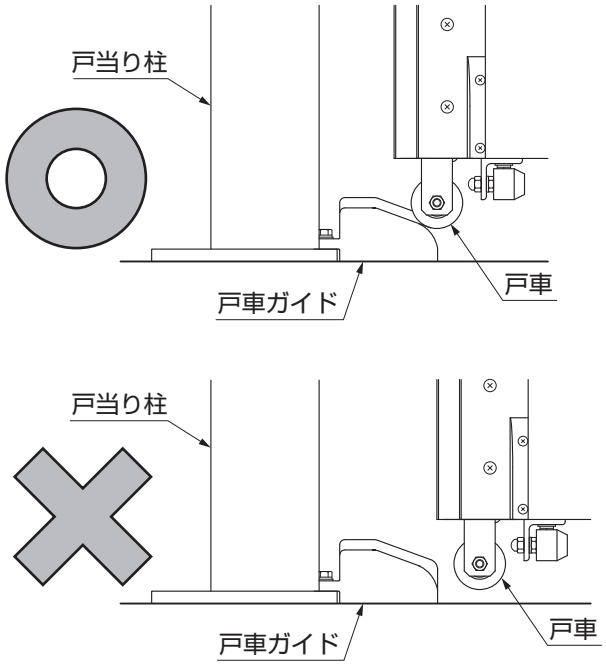


図7-4

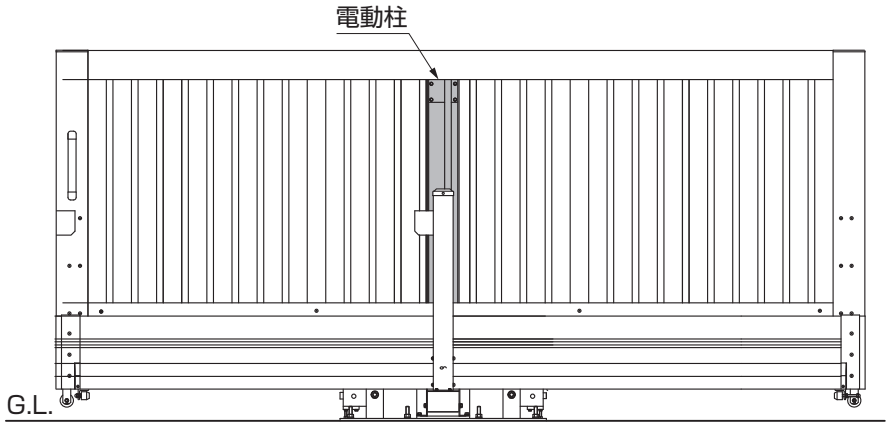


図7-5

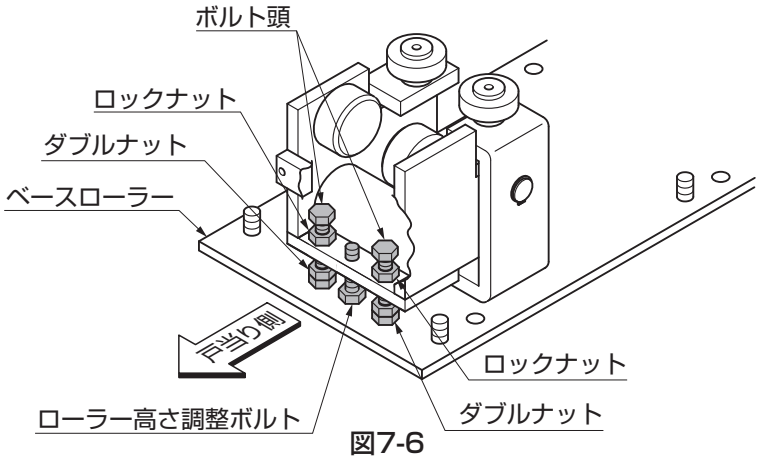


図7-6

①戸車が戸車ガイドの傾斜面に接していることを確認してください。（図7-4参照）

ポイント

●戸車が戸車ガイドの傾斜面に接しない場合は、本体ベースを電動柱に対して中央になるように戻してください。電動柱に対して、中央に戻さないと調整ができません。（図7-5参照）

②ベースローラー戸当り側のロックナットを緩めてください。（図7-6参照）

ポイント

●ボルト頭、ダブルナットは緩めないでください。調整できなくなります。

③ベースローラーの高さ調節ボルトを回して、本体ベースの高さを調整してください。（図7-6参照）

補 足

●時計方向に回すと上がり、反時計方向に回すと下がります。

ポイント

●ローラー高さ調整ボルト1回転で、本体ベースの先端高さが約10mm変わります。

④本体ベースを元に戻して、戸車ガイドが傾斜面に接する高さになっていることを確認してください。（図7-4参照）

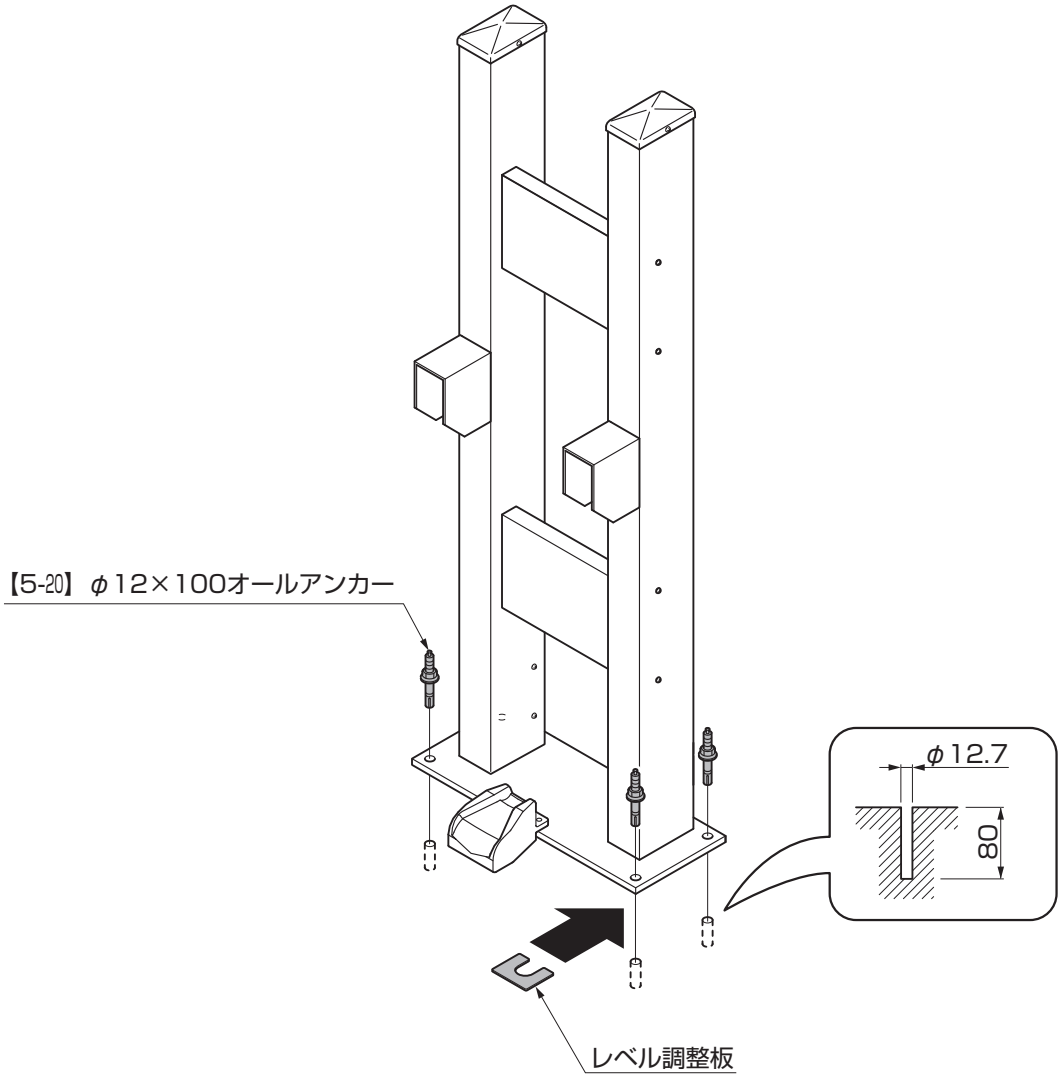
⑤本体ベースを再びガイド柱中央に戻してから、ロックナットを左右均等に確実に締めて固定してください。

補 足

●原則として高さ調整は、戸当り側のローラー高さ調整ボルトで行なってください。戸当り側だけでは調整できない場合は、引き込み側も使って調整してください。

7.（つづき）

7-3 戸当り柱の固定



①戸当り柱ベース部分の孔に合わせて、コンクリートにφ12.7mm、深さ80mmの孔をあけてください。
②位置決めした戸当り柱を【5-20】で固定してください。
③戸当り柱が垂直に立っていることを確認してください。

補 足

●垂直に立っていない場合は、戸当り柱ベースの下にレベル調整板を入れて垂直を出してください。

8. レベル調整 ※両引きの作業です。

8-1 本体パネルの通り調整

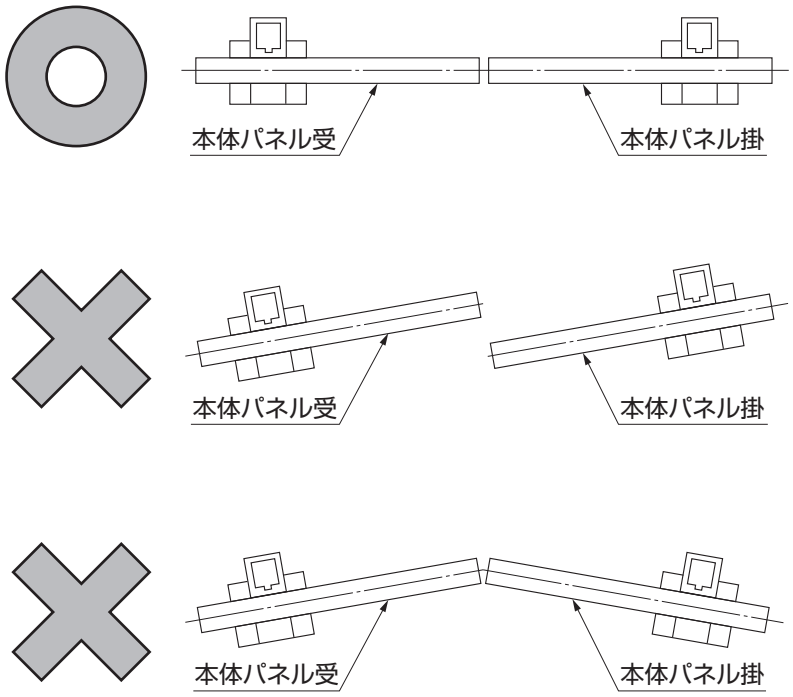


図8-1

①本体パネル掛と本体パネル受の通りが一直線になっていることを確認してください。（図8-1参照）

補 足

●通りが出ていない場合は、「ベースローラー取付ナット」を緩めて調整してください。（「3.ベースローラーのレベル調整」の図3-1、図3-2参照）

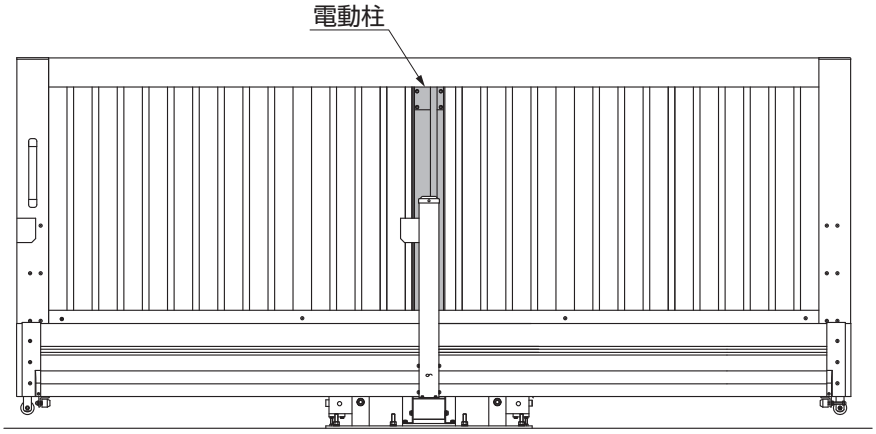


図8-2

②調整を行なう側の本体ベースを電動柱に対して中央になるように戻してください。（図8-2参照）

③「ベースローラー取付ナット」を緩めて、ベースローラーの取付位置を本体パネルの通りが一直線になるように調整してください。

④緩めた「ベースローラー取付ナット」を確実に締めて固定してください。

注 意

●「ベースローラー取付ナット」が緩んだ状態で本体パネルを開閉すると、本体パネルが転倒・破損して事故につながるおそれがあり、大変危険です。

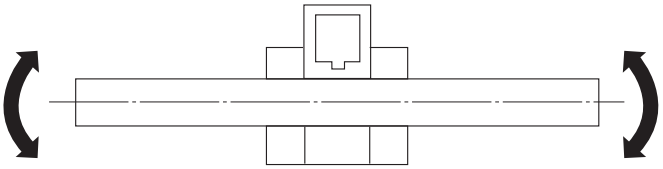
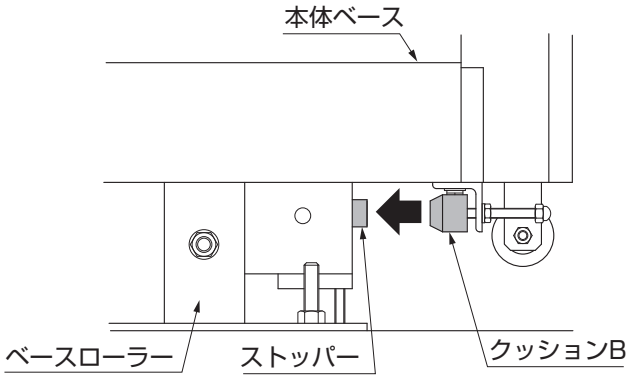


図8-3

8.（つづき）

8-2 本体パネル受け側の調整

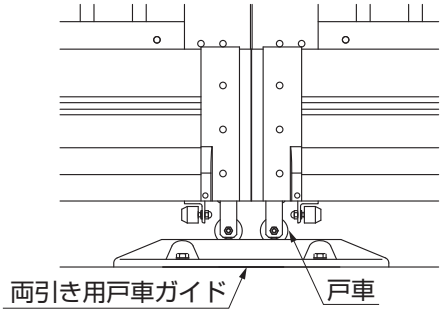


①本体パネル受け側を、クッションBがストッパーに当たるまでいっぱいに引き出してください。
②本体パネルが垂直に立っていることを確認してください。

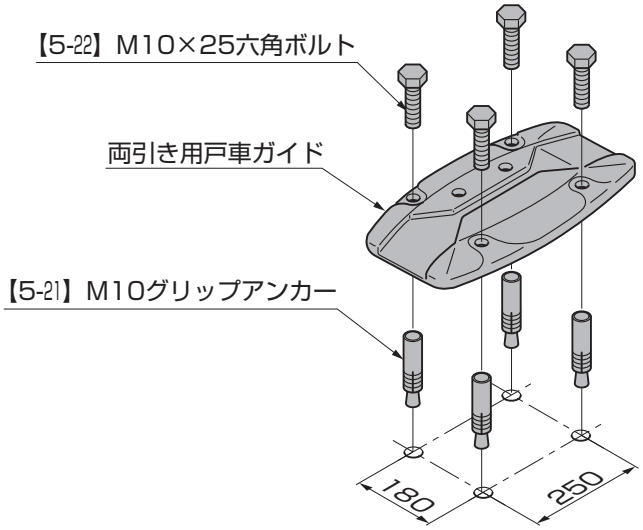
補 足

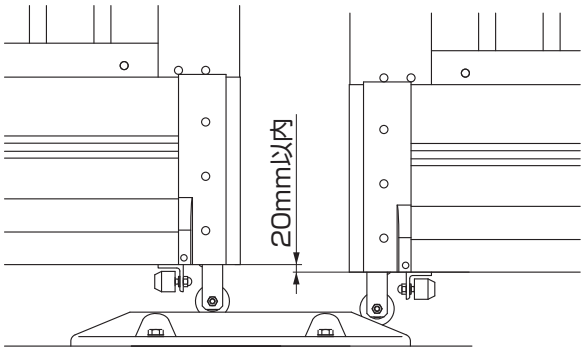
● 垂直になっていない場合は、「7-2 本体ベースのレベル調整」の②、③、④の作業を行なって垂直を出してください。

8-3 両引き用戸車ガイドの取付け



①両引き用戸車ガイドを開口中央に仮置きしてください。
②本体ベース掛けと本体ベース受けを引き出して戸車がガイドに納まる位置に両引き用戸車ガイドの位置を調整してください。
③調整が終わったら両引き用戸車ガイドの孔位置にコンクリートドリルで孔をあけて【5-21】、【5-22】で取付けてください。





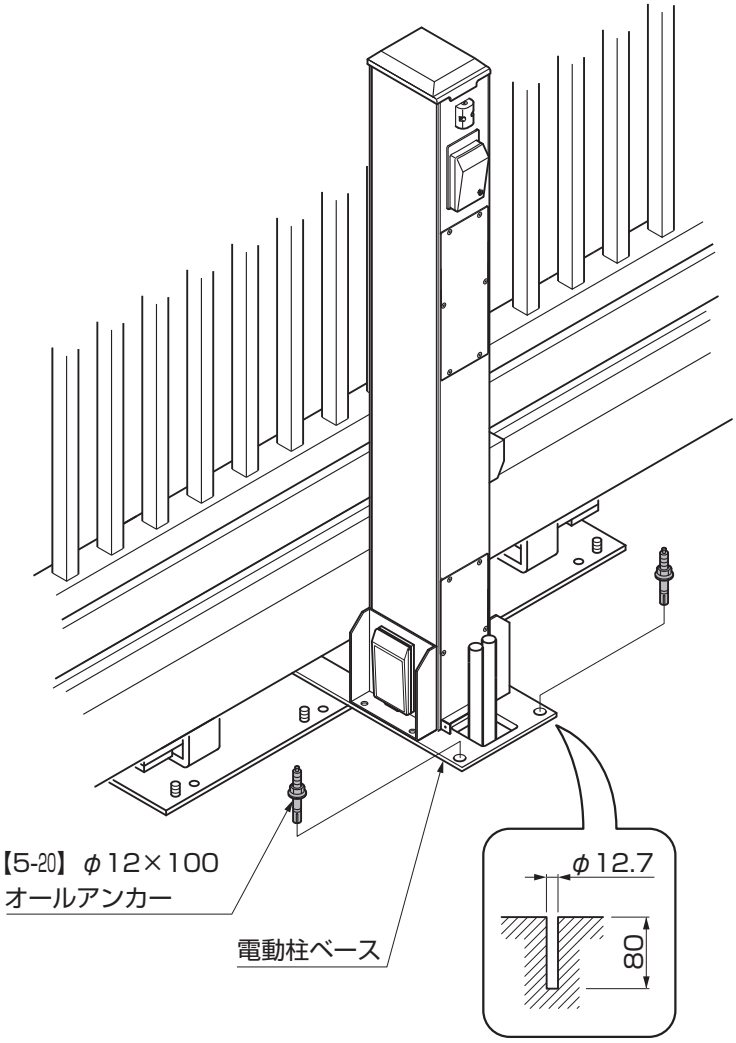
④本体ベースを両引き用戸車ガイド付近まで引き出してください。
⑤戸車が両引き用戸車ガイドの傾斜部分に接していることを確認してください。

補 足

●高さが合っていない場合は、「7-2 本体ベースのレベル調整」の②、③、④の作業を行なって高さを調節してください。

D409_200709B

9.電動柱ベースの固定

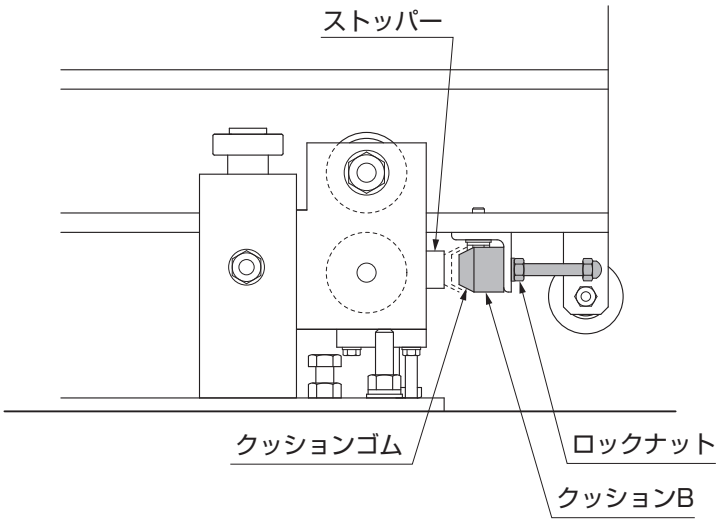


①電動柱ベースの孔に合わせて、コンクリートにφ12.7mm、深さ80mmの孔をあけてください。
②電動柱が垂直に立っていることを確認して電動柱ベース端部を【5-20】で固定してください。

補 足

●電動柱が垂直に立っている状態で、電動柱ベースとG.L.の間にすき間がある場合は、レベル調整板を入れてください。

10.クッションBの調整



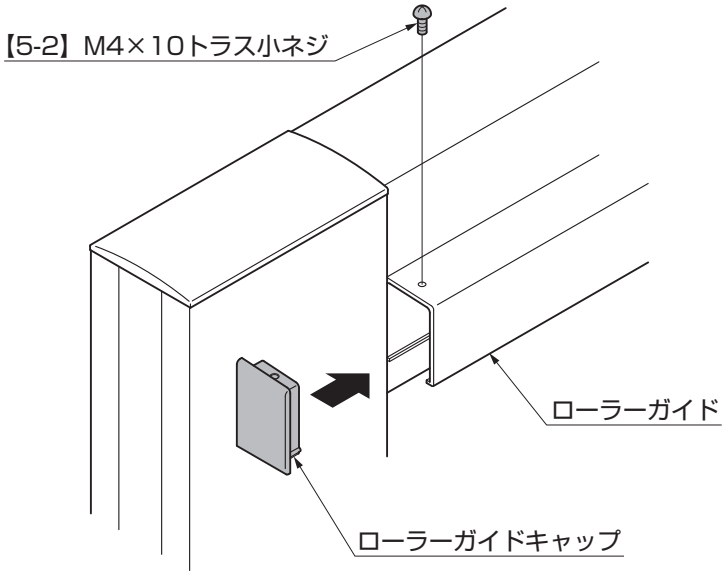
ポイント

●錠がスムーズに施錠・解錠できる位置で作業を行ない、ストッパーとクッションゴムが当たるように、クッションBを調整してください。

①ロックナットを緩めて2つのクッションゴムが均等にストッパーに当るように、クッションゴムを回して調整してください。
②調整後、ロックナットを締めて固定してください。

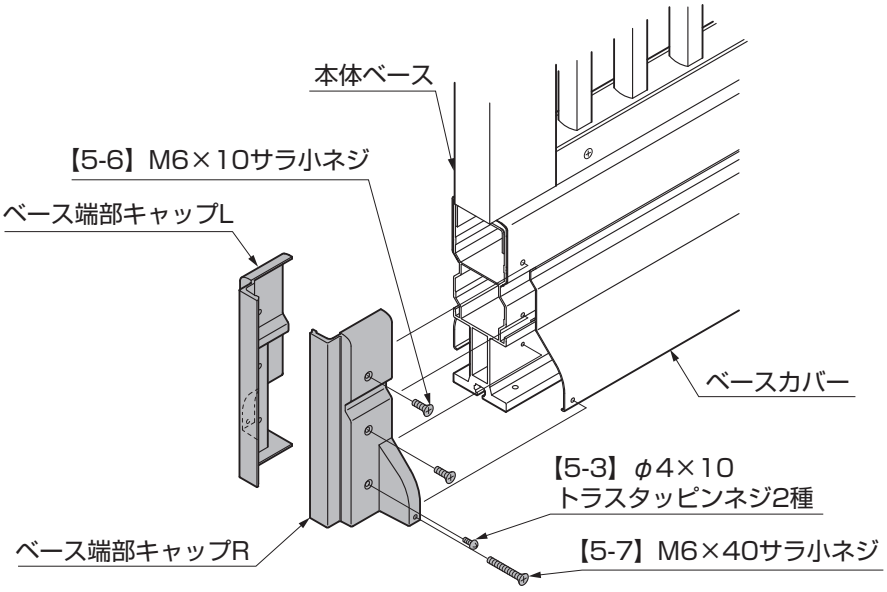
11.キャップ類と落し棒の取付け

11-1 ローラーガイドキャップの取付け



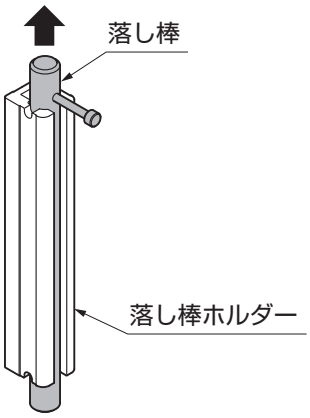
①ローラーガイドの両端に、ローラーガイドキャップを【5-2】で取付けてください。

11-2 ベース端部キャップと落し棒の取付け

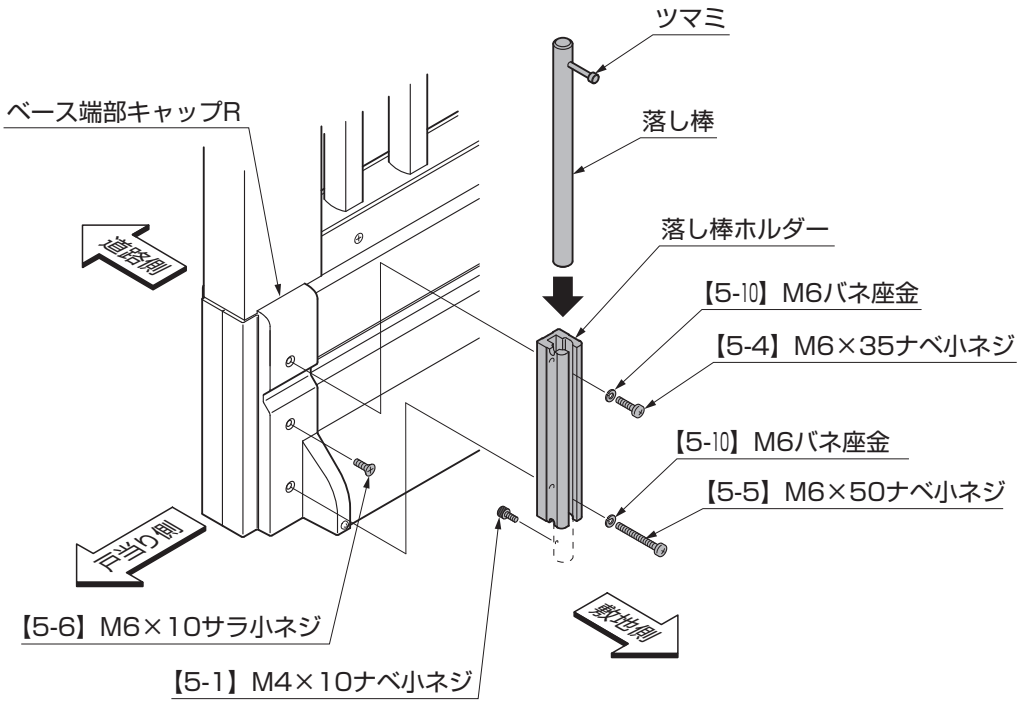


①本体ベースの両端に、ベース端部キャップRとベース端部キャップLを【5-6】、【5-7】で取付けてください。

②ベースカバーをベース端部キャップに【5-3】で固定してください。

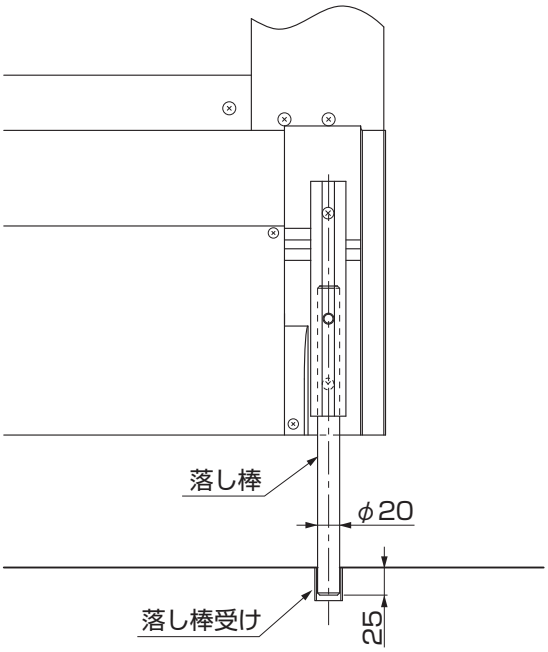


③落し棒を落し棒ホルダーから引き抜いてください。



④ベース端部キャップと落し棒ホルダーを敷地側に、【5-4】、【5-5】、【5-10】で取付けてください。
⑤落し棒を落し棒ホルダーに通してから、落し棒に【5-1】を取付けてください。

12. 落し棒受けの取付け



①落し棒受けは、ラングベールを閉めた状態と開けた状態で、落し棒が落し棒受けに入る位置に各々埋込んでください。

補 足

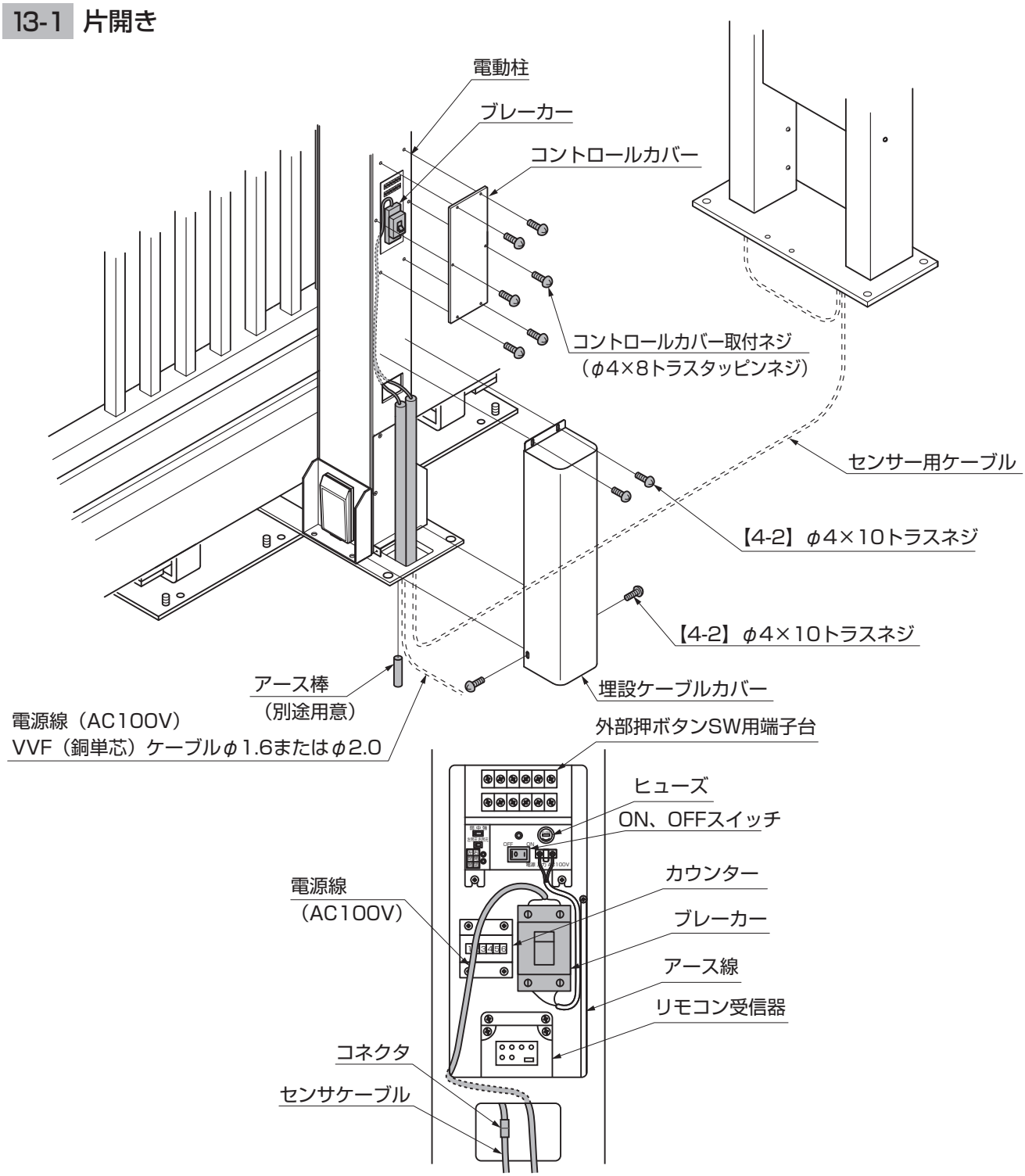
●埋込み位置は、「1.基本寸法と各部の名称」を参照してください。

13. 電動柱の配線方法

⚠注 意

●電源線の施工、第3種接地工事は電気工事の有資格者に依頼してください。

13-1 片開き



①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
②電源線（AC100V）を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
③第3種接地工事を行なってください。
④コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【4-2】で電動柱に取付けてください。

13-2 両開き

連結ケーブルおよび
外部押ボタンSW用端子台
ブレーカー
電動柱
電動柱
ブレーカー
コントロールカバー
コントロールカバー取付ネジ
（φ4×8トラスタッピンネジ）
コントロールカバー取付ネジ
（φ4×8トラスタッピンネジ）
【4-2】φ4×10
トラスネジ
埋設ケーブルカバー
連結ケーブル
アース棒
（別途用意）
【4-2】φ4×10トラスネジ
【4-2】φ4×10トラスネジ
埋設ケーブルカバー
アース棒
（別途用意）
電源線（AC100V）
VVF（銅単芯）ケーブルφ1.6またはφ2.0

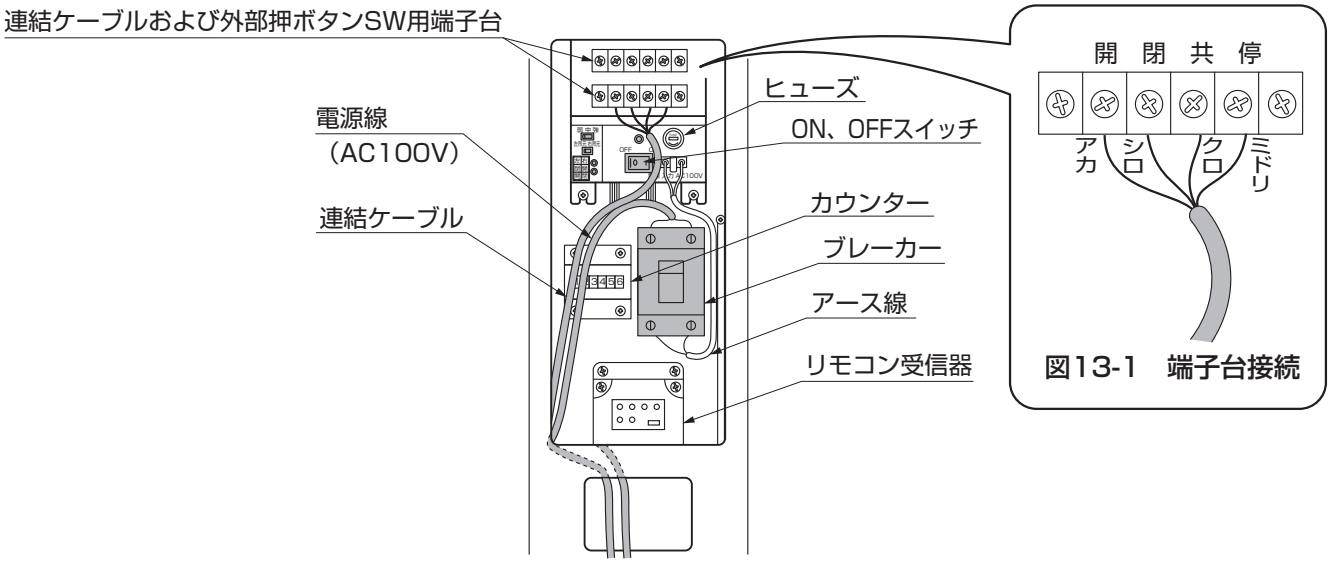


図13-1　端子台接続

①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
②電源線（AC100V）を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
③電動柱連結ケーブルを柱の中を通し、外部押ボタンスイッチ用端子台につないでください。（図13-1参照）
④第3種接地工事を行なってください。
⑤コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【4-2】で電動柱に取付けてください。

14. 光電センサーについて　※光電センサーは障害物を検認する安全のための装置です。

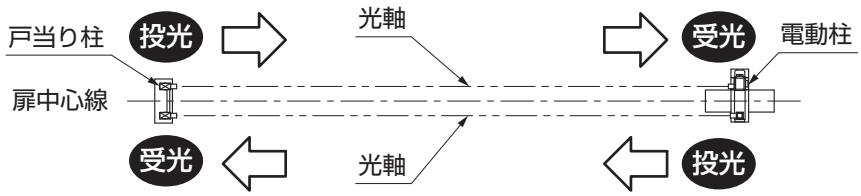


図14-1　片引き

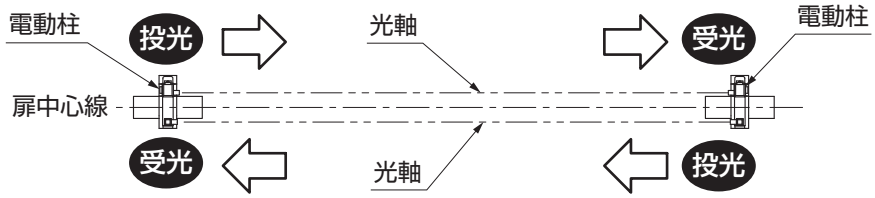


図14-2　両引き

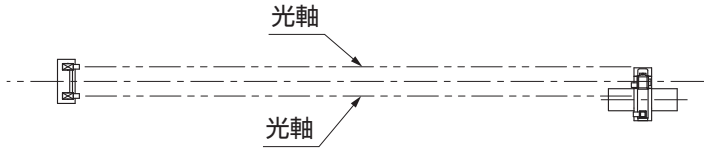


図14-3　光軸が平行にズレた場合

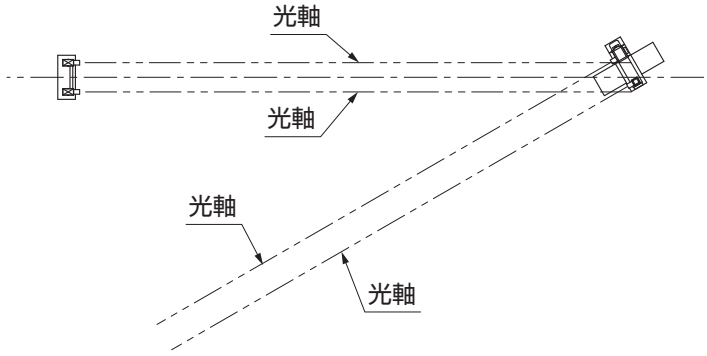


図14-4　光軸の角度があっていない場合

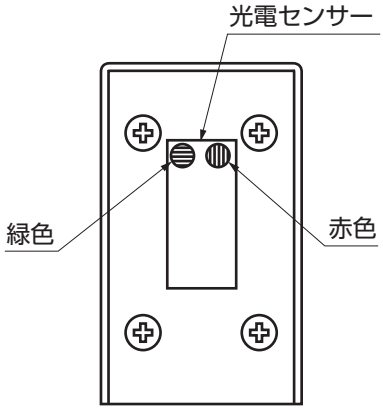


図14-5　センサー（受光側）

ポイント

- 両引きの場合、図のようにセンサーの投光➡受光が向き合うようにセンサー柱を取付けてください。
- センサーの特性上、図14-3、図14-4の組付けでは、センサーが誤動作したり、引戸が開閉しなくなる場合があります。センサーの光軸が合っていることを必ず確認ください。

①光電センサーは光軸をあわせるように組付けてください。

ポイント

- センサー（受光側）には、緑と赤のLEDがあります。（図14-5参照）
- 緑色のみ点灯している時…
  光軸が一致していない状態
- 緑色と赤色が点灯している時…
  光軸が一致している状態

ポイント

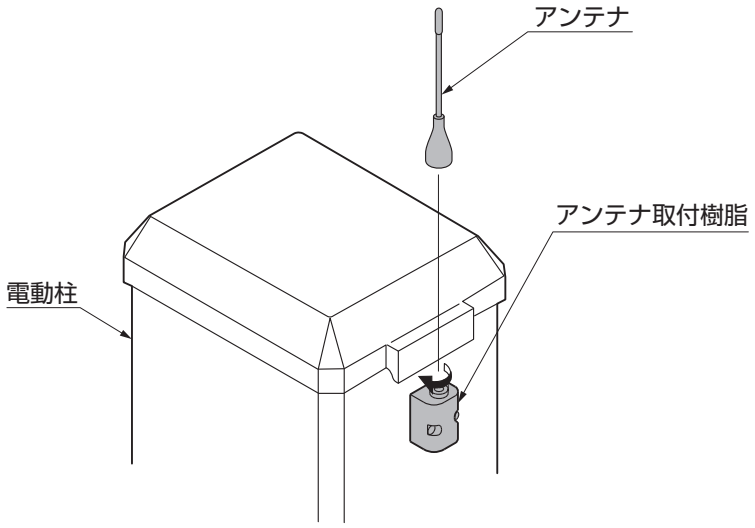
- センサー（投光側）は、通電時には常に赤色のみ点灯しています。

D409_200709B

15. アンテナの取付け

※使用環境の違いによりリモコン到達距離が短くなる場合があります。
その場合はオプションのアンテナ延長ケーブルセットをご使用ください。

15-1 電動柱に取付ける場合

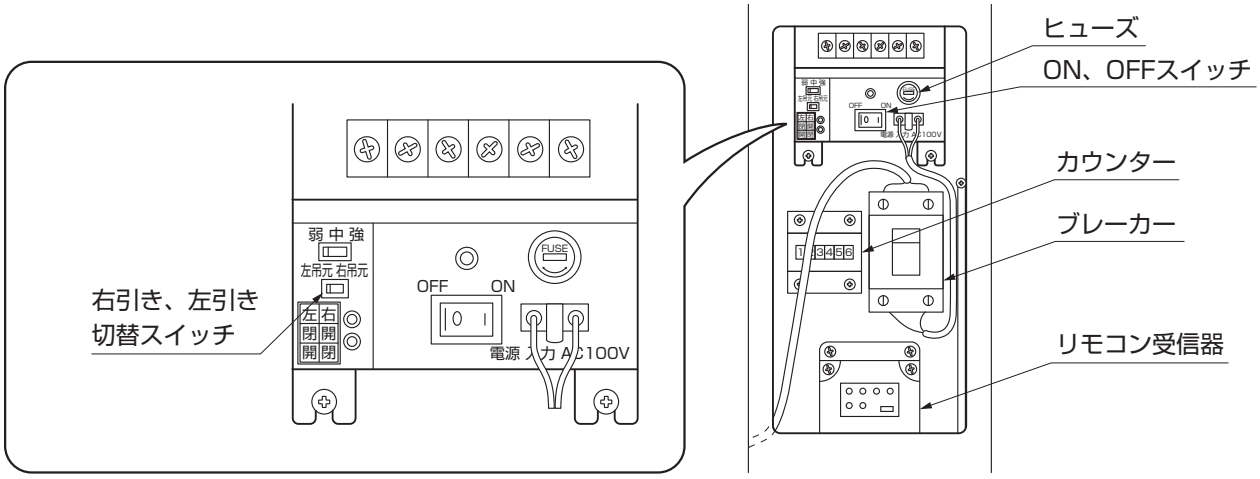


ポイント

●延長ケーブルは3mあります。アンテナを取付ける場所と電動柱の距離を確認してから取付けてください。

①アンテナをアンテナ取付樹脂に時計回りにまわして取付けてください。

16. 右引き、左引きの切替について



①コントロールカバーを外してください。
②引戸が右引きのときは、右吊元に、左引きのときは左吊元に切替スイッチを動かしてください。
③コントロールカバーを取付けてください。

補 足

●初期設定は右引きになっています。左引きでお使いの場合は、切替スイッチを動かしてください。

17. マグネットスイッチの取付け

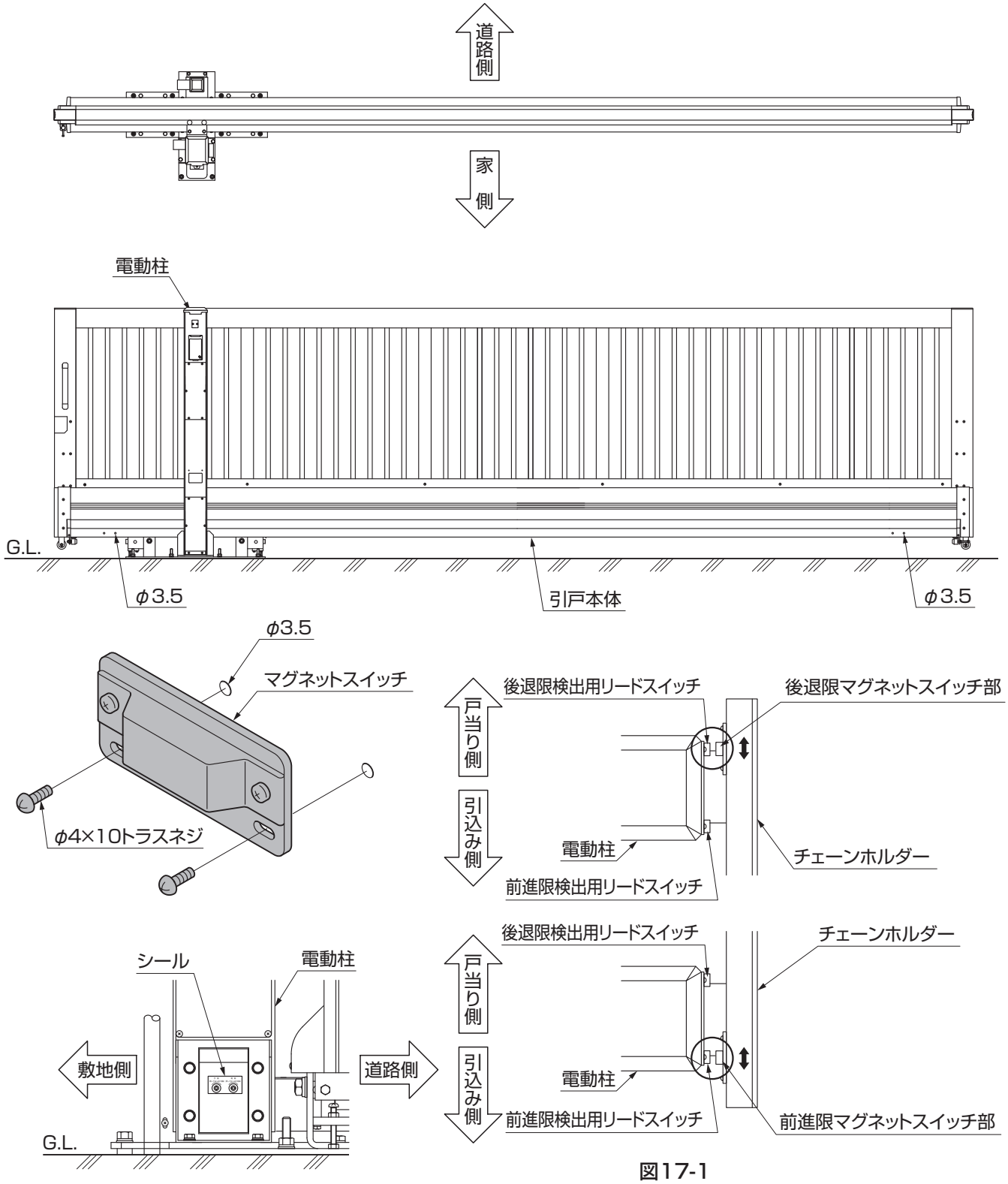
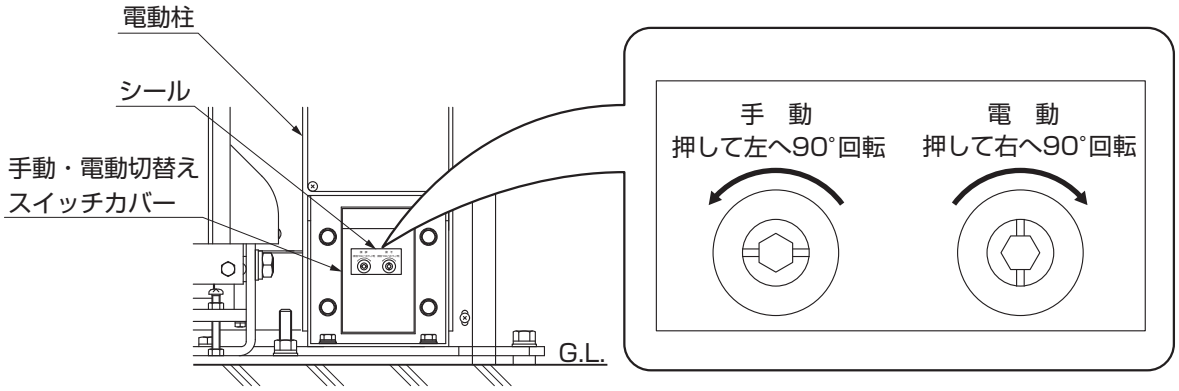
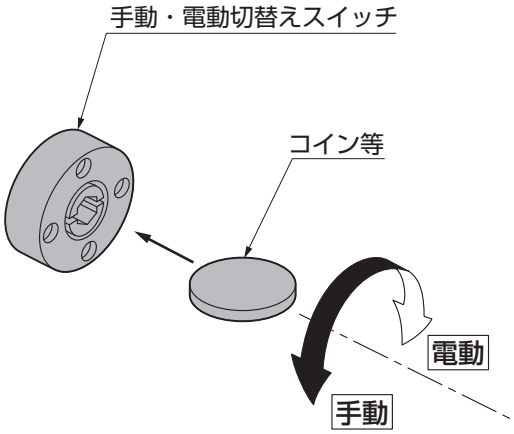


図17-1

①引戸の全閉、全開時に、リードスイッチと向かい合う位置にマグネットスイッチを取付けてください。
②マグネットスイッチ裏面には仮止めの両面テープを貼っています。目測で図17-1の位置になるよう取付けてから実際に動かして位置を決めてください。
③その際リードスイッチとマグネットスイッチの中心が合うように取付けてください。
④位置が決まりましたらドリル下孔（φ3.5）をあけ、ネジで固定してください。

18. 手動と電動の切替方法について





①手動・電動を切替える場合は、手動・電動切替スイッチカバーの簡易錠をコイン等で開位置（溝が水平）まで回してカバーを開け、カバーに貼付けられたシールに従ってコイン等で切替えてください。

補 足

●電動柱は工場出荷時は電動になっています。

19. リモコンについて ※リモコン送信器の実用到達距離は約10mなのでその範囲内で操作してください。

19-1 電池の入れ方

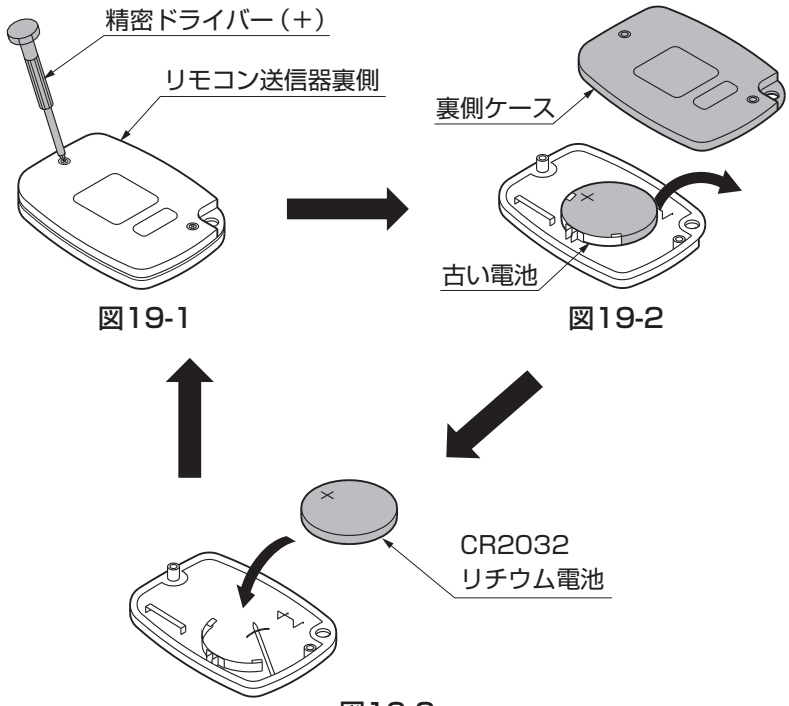


図19-1　図19-2　図19-3

補 足

●リモコンの到達距離が短くなったり、動作表示灯が点滅しなくなった場合は、速やかに新しい「リチウム電池ＣＲ2032」に交換してください。
●電池寿命は、1日10回（開・閉・停いづれか1操作／回）の使用で約5年です。

①リモコン送信器の裏側のネジ（2箇所）を精密ドライバー等ではずしてください。（図19-1参照）
②リモコン送信器の裏側のケースをはずし古い電池を取出してください。（図19-2参照）
③新しい電池を「＋マーク」が見える向き（上側）にはめ込んでください。（図19-3参照）
④はずしたケースを取付けてください。（図19-1参照）

補 足

●電池の極性「＋、－」を確認の上セットしてください
●電池交換の際は、水分やほこり等が入らないように注意してください。また、回路部に触れぬようにご注意ください。

19-2 登録方法

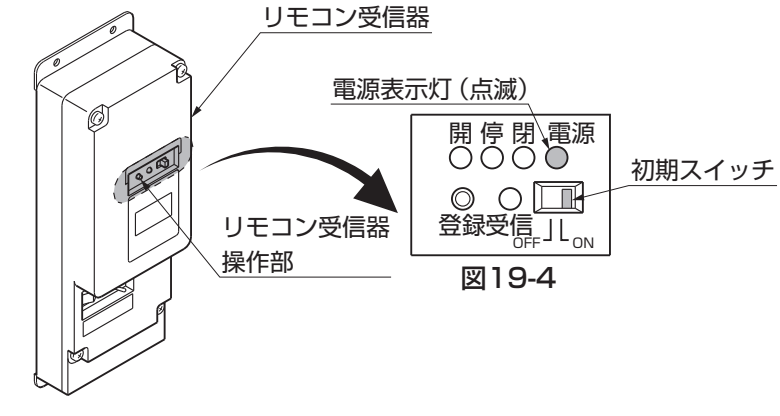


図19-4

図19-5

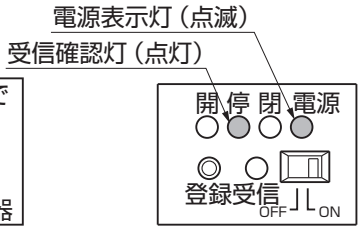


図19-6

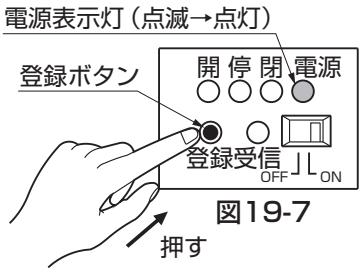


図19-7

①電動柱のコントロールカバーをはずしてください。
②リモコン受信器の初期スイッチを「ON」にしてください。

補 足

- 電源表示灯が点滅（緑色）します。（図19-4参照）
- 点滅しない場合は、初期スイッチを一度「OFF」にし、もう一度「ON」側にします。

③リモコン受信器の近くで、登録するリモコン送信器の「停止」ボタンを押してください。（図19-5参照）

補 足

- リモコン受信器の受信確認灯「停」が点灯（赤色）し、送信器登録が完了します。（図19-6参照）

④リモコン送信器の登録完了後、リモコン受信器の登録ボタンを押して登録または電源表示灯が「点灯」に変わるまで待ってください。（図19-7参照）

補 足

- 電源表示灯が「点灯」になり、受信器登録が完了します。

⑤はずしたコントロールカバーを取付けてください。ネジの締め忘れのないように注意してください。

ポイント

- 受信器への登録は、必ず電源表示灯が「点滅している1分間」に操作してください。
- 初期スイッチを「OFF」にすると、リモコン送信器の登録をすべて抹消します。登録が抹消した場合、リモコン送信器での操作はできなくなります。

19-3 追加登録方法

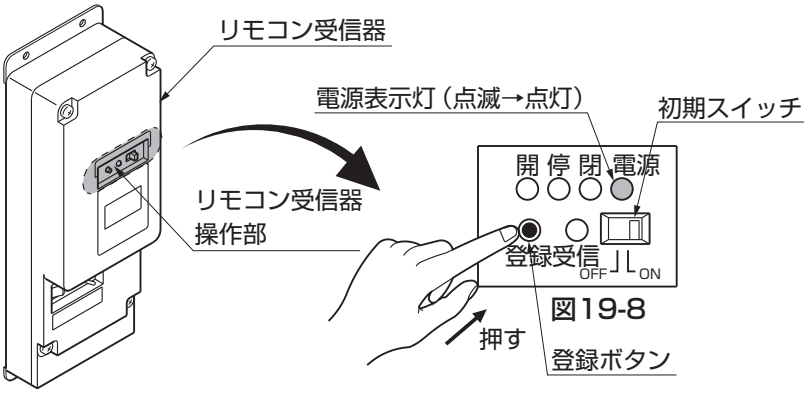


図19-8

コントロールボックス

図19-9

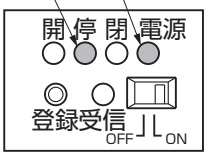


図19-10

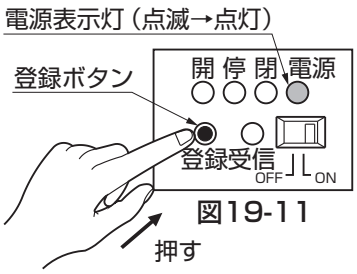


図19-11

ポイント

●リモコン送信器を増やす場合、初期スイッチは「ＯＮ」の状態で登録してください。

①電動柱のコントロールカバーをはずしてください。

②リモコン受信器の登録ボタンを押してください。（図19-8参照）

補 足

●電源表示灯が点滅（緑色）します。（図19-8参照）

●リモコン送信器は、最大16個が「登録可能」です。

③リモコン受信器の近くで、登録するリモコン送信器の「停止」ボタンを押してください。（図19-9参照）

補 足

●リモコン受信器の受信確認灯「停」が点灯（赤色）し、送信器登録が完了します。（図19-10参照）

④リモコン送信器の登録完了後、リモコン受信器の登録ボタンを押して登録または電源表示灯が「点灯」に変わるまで待ってください。（図19-11参照）

補 足

●電源表示灯が「点灯」になり、受信器登録が完了します。

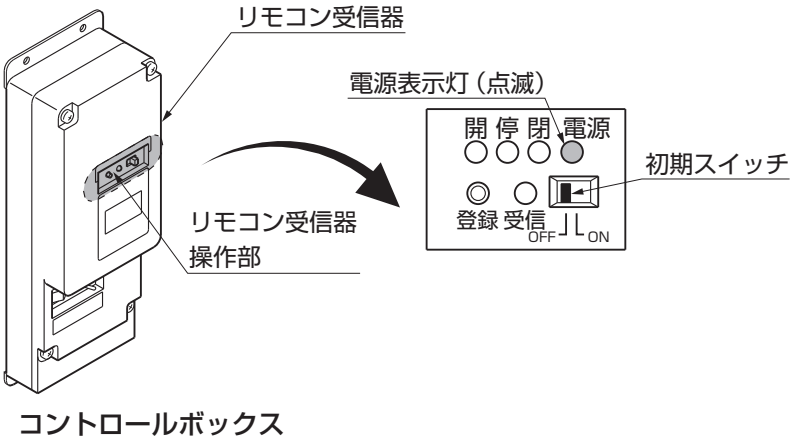
⑤はずしたコントロールカバーを取付けてください。ネジの締め忘れのないように注意してください。

ポイント

●リモコン送信器を増やす場合、初期スイッチは絶対に動かさないでください（「ＯＮ」側のままで固定）。「OFF」にすると、登録をすべて抹消し、リモコン送信器での操作はできなくなります。

●受信器への登録は、必ず電源表示灯が「点滅している1分間」に操作してください。

19-4 登録取消し方法



①すべての登録を取消す場合は、リモコン受信器の初期スイッチを「OFF」側にしてください。

20. 引戸開閉操作の確認

20-1 リモコン送信器での操作方法

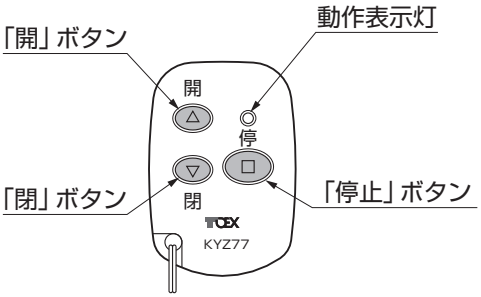


図20-1　MDC-3リモコン送信器

①「開」ボタンを1回押して、2秒以内にもう1回押してください。動作表示灯が点滅して、扉が開きます。
②「停止」ボタンを押してください。動作表示灯が点滅して、扉が停止します。
③「閉」ボタンを1回押して、2秒以内にもう1回押してください。動作表示灯が点滅し、扉が閉じます。

補 足

- ●リモコン送信器の実用到達距離約10メートル以内で操作してください。
- ●「開または閉」ボタンを2回押す間隔が2秒を超えると送信しませんので注意してください。
- ●安全上「停止」ボタンに限り1回押すだけで送信するようになっています。
- ●開／閉動作中に逆方向の閉または開動作するときは、必ず一度「停止」ボタンを押してから次の押ボタンを押してください。

20.（つづき）

20-2 電動柱押しボタンスイッチでの操作方法

※電動柱に付いている押ボタンを押して扉を開閉してください。

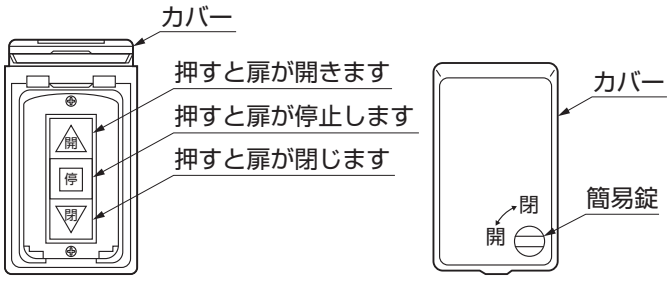


図20-2　電動柱押ボタンスイッチ

①簡易錠をコイン等で開位置（溝が水平）まで回してカバーを開けてください。
②開ボタンスイッチを押すと扉が開きます。
③停ボタンスイッチを押すと扉が停止します。
④閉ボタンスイッチを押すと扉が閉じます。
⑤カバーを閉め、簡易錠をコイン等で閉位置（溝が垂直）まで回し施錠してください。

注 意

●イタズラや誤操作による損害を防ぐために、操作時以外はカバーをロックしてください。

21. 施工後の点検

21-1 引戸本体の確認

①すべての部品の取付け後、電動柱下部のクラッチ解除レバーを再度手動にして、引戸本体がスムーズに作動するか確認してください。
②次にクラッチ解除レバーを電動にして引戸を作動してください。前ストッパー、後部ストッパーに引戸が当る直前に駆動モーターが切れるタイミングになるよう、マグネットスイッチを調整し直してください。
③調整後、再度電動で引戸を作動させ全開状態、全閉状態でクラッチ解除レバーを手動に切替えてください。スムーズにできれば調整終了です。

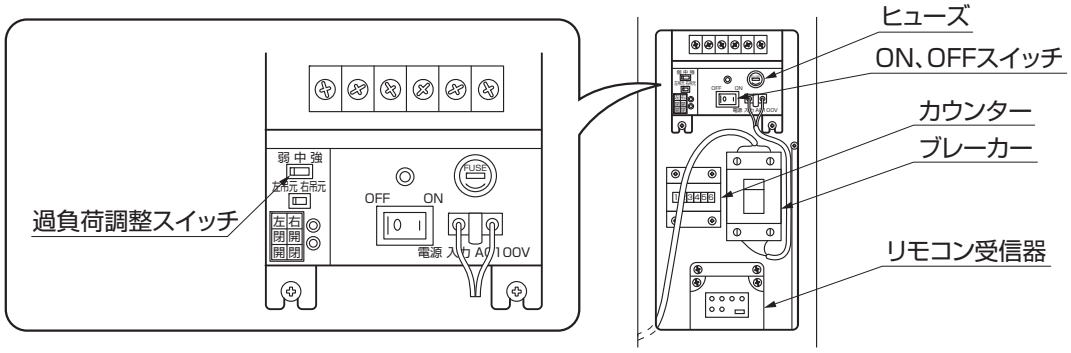
21-2 センサー作動の確認

（1）光電センサー

①センサー柱内に透過型光電センサーがGLから約75cmの位置に組込まれていて、障害物を検出した場合引戸は停止します。センサーの確認方法として、手などでセンサーを遮光し引戸が確実に停止するかテストを行なってください。停止後、引き続き開閉操作を行なうと引戸は作動します。

（2）回転センサー

①回転センサーによる過負荷検出が可能な装置が組込まれています。引戸が閉じる方向に動いている途中で、障害物等にぶつかり停止した場合、約2秒後にスイッチが切れ約15cm後退して停止します。開く方向に動いている途中で停止した場合、約2秒後にスイッチが切れ約15cm後退して停止します。停止後、引き続き開閉操作を行なうと引戸は作動します。
②過負荷検出は調整が可能です。引戸本体が作動途中で停止し、センサーが作動してしまう場合には、過負荷調整スイッチを「中」または「強」にしてください。



メモページ

取説コード
D409
XXX013459
200709B_1039

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。